

住宅火災・放火火災の実態

(令和6年中)

東京消防庁
防災部防災安全課

第1章 住宅火災の実態

(※住宅火災による死者・負傷者は自損によるもの及び消防職員・消防団員を除く)

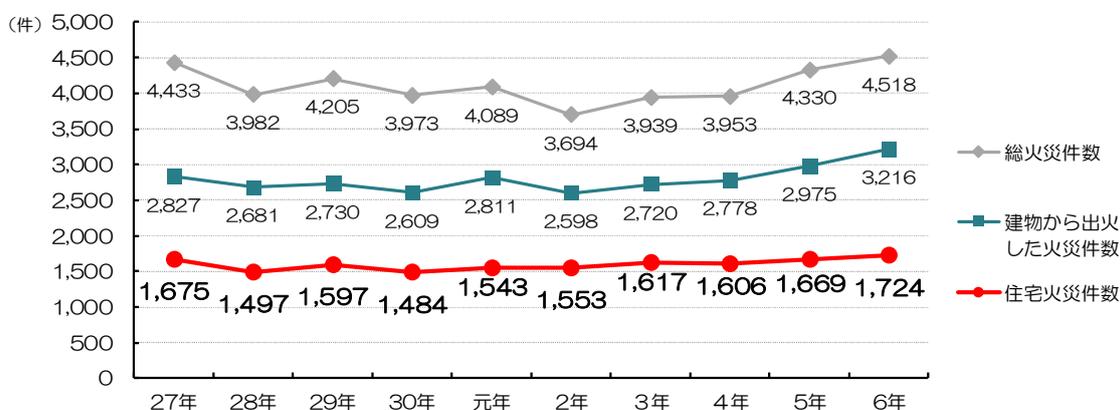
1 住宅火災の概要

(1) 住宅火災件数

- 令和6年中の総火災件数は **4,518件** (うち治外法権1件含む)
- 住宅火災(住宅《複合用途建物の住宅部分を含む》及び共同住宅《寄宿舎を含む》)から出火した火災をいう)は **1,724件**で、前年に比べ、**55件増加**
- 建物から出火した火災は **3,216件**、このうち住宅火災の割合は **53.6%**
- 住宅火災の内訳は、**住宅581件(33.7%)**、**共同住宅1,143件(66.3%)**

(図1-1、表1-1、表1-2、図1-2)

図1-1 過去10年の住宅火災件数等



※1 治外法権及び管外からの延焼火災1件は、総火災件数のみ計上します。
 ※2 「建物から出火した火災」とは火元の用途が建物の火災です。

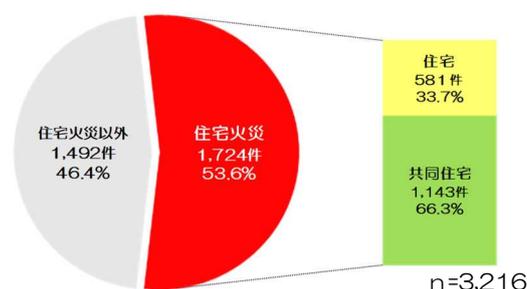
表1-1 過去10年の住宅火災件数等の推移

年 別	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年
総火災件数	4,433	3,982	4,205	3,973	4,089	3,694	3,939	3,953	4,330	4,518
建物から出火した火災件数	2,827	2,681	2,730	2,609	2,811	2,598	2,720	2,778	2,975	3,216
住宅火災件数	1,675	1,497	1,597	1,484	1,543	1,553	1,617	1,606	1,669	1,724
建物から出火した火災に対する住宅火災の割合	59.3%	55.8%	58.5%	56.9%	54.9%	59.8%	59.4%	57.8%	56.1%	53.6%

表1-2 建物から出火した火災の内訳

建物から出火した火災	3,216件
住宅火災件数	1,724件 (53.6%)
住宅	581件 (33.7%)
共同住宅	1,143件 (66.3%)
住宅火災以外の建物から出火した火災	1,492 (46.4%)

図1-2 建物から出火した火災の内訳



(2) 住宅火災による死者数

- 火災による死者は **89 人**、前年比 **18 人増加**
- 住宅火災による死者は **82 人**、前年比 **15 人増加**
- 火災による死者のうち、住宅火災による死者の割合は **92.1%**を占める
- 住宅火災による死者のうち、65 歳以上の高齢者（以下「高齢者」という）は **58 人**で、全体の **70.7%**を占める

（図 1-3、図 1-4、表 1-3）

- 住宅火災による死者を用途別に見ると、住宅で **43 人(52.4%)**、共同住宅で **39 人(47.6%)**の死者が発生し、住宅の割合が高い

（表 1-4、図 1-5）

図 1-3 過去 10 年の住宅火災等による死者数の推移

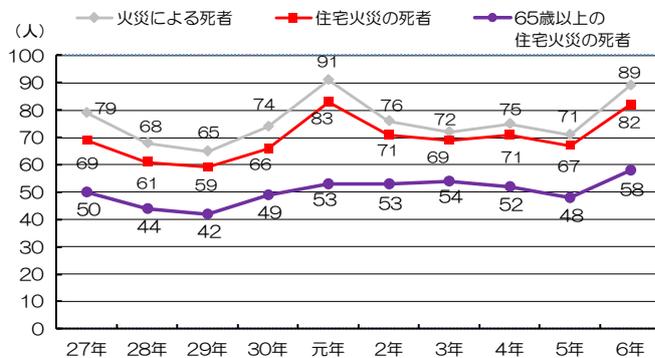


図 1-4 過去 5 年の住宅火災による死者数と高齢者の割合

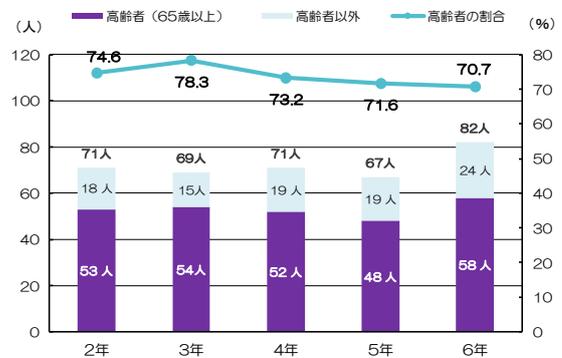


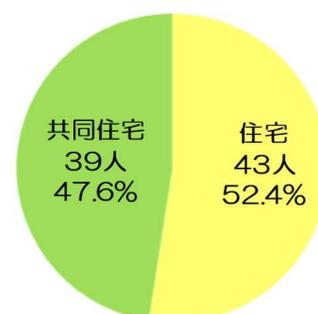
表 1-3 過去 10 年の住宅火災による死者数

年別	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年
火災による死者	79	68	65	74	91	76	72	75	71	89
住宅火災による死者	69	61	59	66	83	71	69	71	67	82
火災による死者のうち、住宅火災による死者の割合	87.3%	89.7%	90.8%	89.2%	91.2%	93.4%	95.8%	94.7%	94.4%	92.1%
高齢者の住宅火災による死者	50	44	42	49	53	53	54	52	48	58
住宅火災による死者のうち、高齢者の死者の割合	72.5%	72.1%	71.2%	74.2%	63.9%	74.6%	78.3%	73.2%	71.6%	70.7%

表 1-4 住宅火災による死者の内訳

用途別	死者数 (高齢者数)	割合
住宅	43(33)	52.4%
共同住宅	39(25)	47.6%
合計	82(58)	100%

図 1-5 住宅用途別死者の内訳



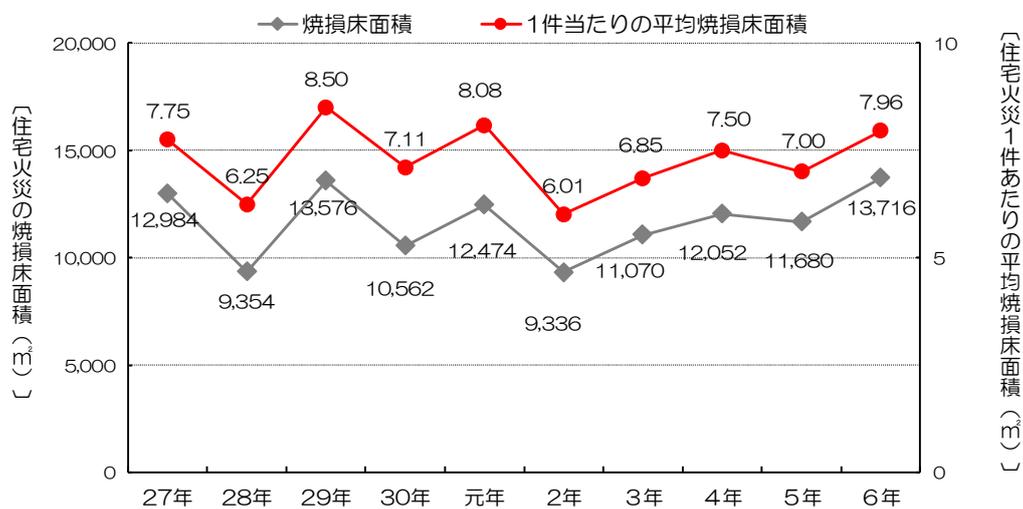
n=82

(3) 住宅火災の焼損床面積

- 令和6年中の住宅火災の焼損床面積は **13,716 m²**、前年比 **2,036 m²**増加
- 住宅1件あたりの平均焼損床面積は **7.96m²**、前年比 **0.96m²**増加

(図 1-6)

図 1-6 過去 10 年の住宅火災の焼損床面積の推移



2 住宅火災の発生状況

(1) 出火原因別

- 「こんろ」が337件(19.5%)で最も多い
- 次いで「たばこ」が201件(11.7%)、「放火」が98件(5.7%)と続く

(表 1-5、表 1-6、図 1-7)

表 1-5 出火原因別住宅火災件数

出火原因	住宅火災		
	合計	住宅	共同住宅
こんろ	337	91	246
たばこ	201	46	155
放火	98	29	69
ストーブ	87	35	52
コンセント	50	22	28
コード	48	22	26
差し込みプラグ	34	19	15
ロウソク	31	10	21
火遊び	9	2	7
その他	668	231	437
不明	161	74	87
合計	1,724	581	1,143

- ※1 「こんろ」は、ガステーブル等及び電気こんろを合わせたものです。
 ※2 「放火」は、放火の疑いを含みます。
 ※3 「ストーブ」は、電気、ガス及び石油を合わせたものです。

図 1-7 住宅火災の出火原因別件数

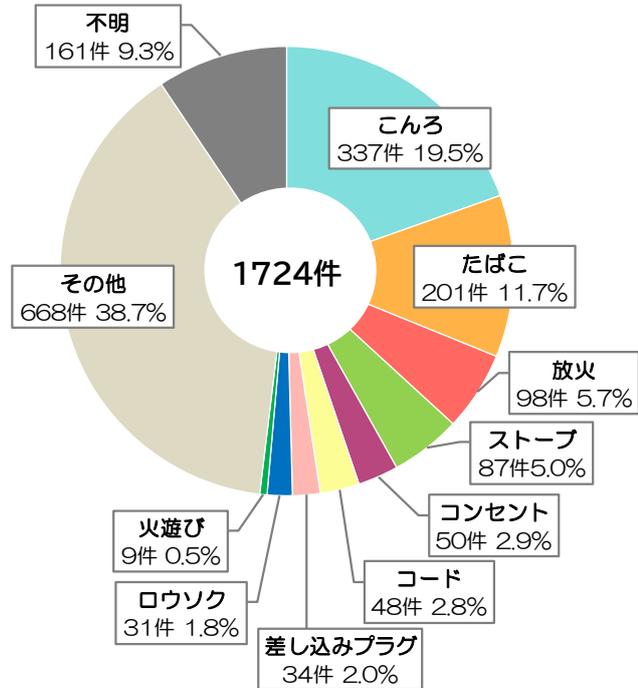


表 1-6 過去5年の住宅火災の出火原因別件数

出火原因	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
こんろ	412	377	347	378	337	-41
たばこ	202	223	229	237	201	-36
放火	144	105	122	100	98	-2
ストーブ	81	95	105	83	87	+4
コンセント	31	45	39	40	50	+10
コード	33	29	34	42	48	+6
差し込みプラグ	21	41	43	32	34	+2
ロウソク	29	36	33	34	31	-3
火遊び	10	6	6	8	9	+1
その他	422	531	509	569	668	+99
不明	168	129	139	146	161	+15
合計	1,553	1,617	1,606	1,669	1,724	+55

(2) 着火物別

- 「くず類」が**219件(12.7%)**で最も多い
- 次いで「紙類」が132件(7.7%)、「衣類・繊維類」が**121件(7.0%)**と続く
(表1-7、表1-8、図1-8)

表1-7 着火物別住宅火災件数

着火物	住宅火災		
	合計	住宅	共同住宅
くず類	219	50	169
紙類	132	32	100
衣類・繊維類	121	33	88
布団類	119	59	60
内装・建具・家具類	107	45	78
てんぷら油	81	24	57
ガス類	76	19	57
着衣	47	24	23
その他	711	239	456
不明	111	56	55
合計	1,724	581	1,143

図1-8 住宅火災の出火原因別の割合

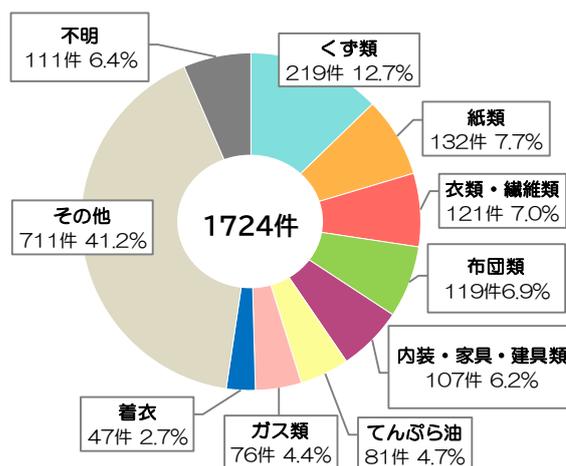


表1-8 過去5年の住宅火災の出火原因別件数

着火物	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
くず類	186	210	223	244	219	-25
紙類	135	128	146	138	132	-6
衣類・繊維類	130	111	99	118	121	+3
布団類	143	134	135	118	119	+1
内装・建具・家具類	52	70	71	82	107	+25
てんぷら油	128	107	92	72	81	+9
ガス類	77	85	88	88	76	-12
着衣	57	47	46	52	47	-5
その他	507	606	581	639	711	+72
不明	138	119	125	118	111	-7
合計	1,553	1,617	1,606	1,669	1,724	+55

(3) 出火箇所別

- 「居室等」が**751件(43.6%)**と最も多い
- 次いで「台所・キッチン等」が**659件(38.2%)**

(表 1-9、表 1-10、図 1-9)

表 1-9 出火箇所別住宅火災件数

出火箇所	住宅火災		
	合計	住宅	共同住宅
居室等	751	279	472
台所・キッチン等	659	194	465
その他・不明	314	108	206
合計	1,724	581	1,143

図 1-9 住宅火災の出火箇所別件数

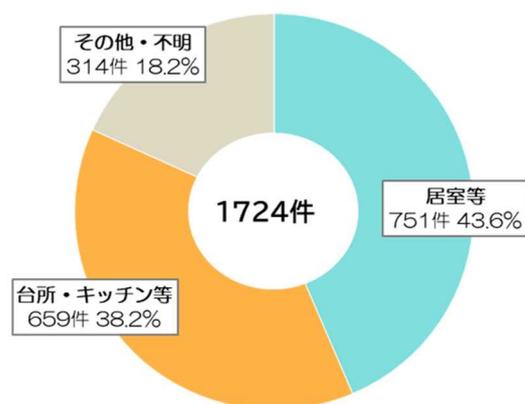


表 1-10 過去 5 年の出火箇所別火災件数

	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	前年比
居室等	629	675	650	687	751	+64
台所・キッチン等	635	638	622	662	659	-3
その他・不明	289	304	334	320	314	-6
合計	1,553	1,617	1,606	1,669	1,724	+55

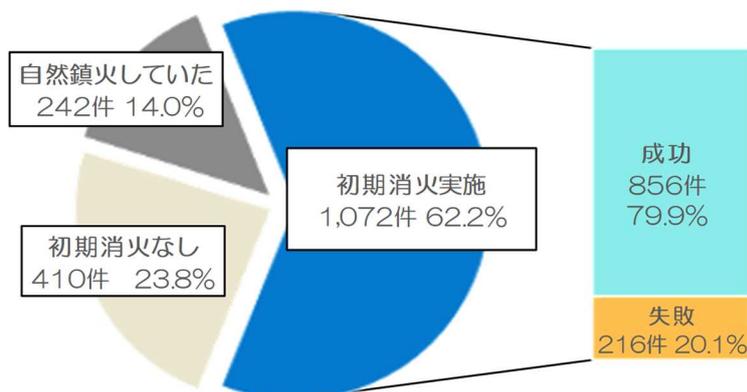
(4) 初期消火別

ア 初期消火実施状況

- 「初期消火実施」が**1072件(62.2%)**、「初期消火なし」が**410件(23.8%)**、「自然鎮火」が**242件(14.0%)**
- 初期消火実施のうち、「成功」が**856件(79.9%)**、「失敗」が**216件(20.1%)**となり、「成功」が「失敗」の**約4倍**

(図 1-10)

図 1-10 初期消火実施状況

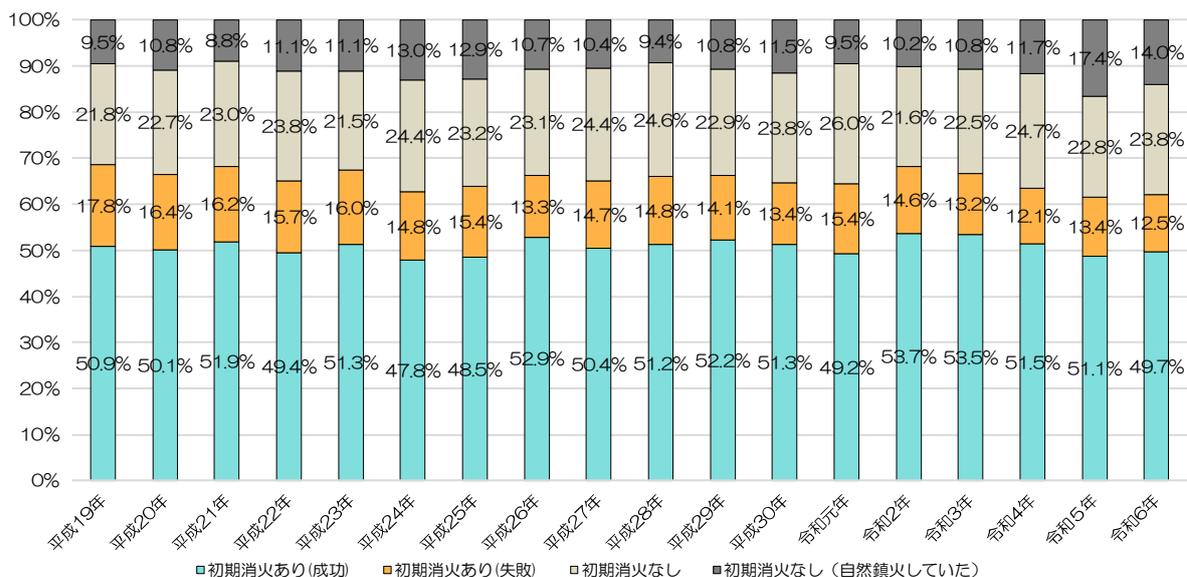


イ 初期消火実施状況の割合の推移

- 初期消火を実施し、消火成功した住宅火災の割合は**5割程度**で推移

(図 1-11)

図 1-11 初期消火実施状況割合の推移



ウ 初期消火実施別状況

- 初期消火を実施した火災と、初期消火を実施しなかった火災（自然鎮火したものを除く）について、火災 100 件あたりの死者数、火災 1 件あたりの損害額及び焼損床面積で比較すると、全ての項目で**初期消火を実施した方が被害は少ない**

（図 1-12-1～3、表 1-11）

図 1-12 令和 6 年中の初期消火実施別状況（自然鎮火を除く）

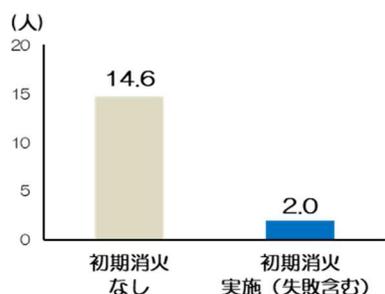


図 1-12-1

火災 100 件あたりの死者数

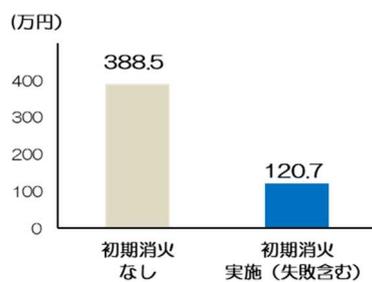


図 1-12-2

火災 1 件あたりの損害額

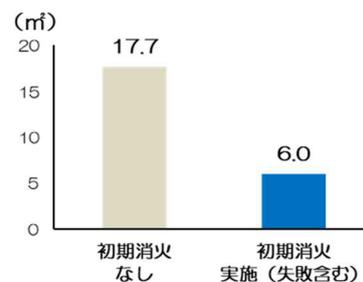


図 1-12-3

火災 1 件あたりの焼損床面積

表 1-11 令和 6 年中の初期消火実施有無別状況

	件数 (件)	死者 (人)	焼損床面積 (㎡)	焼損額合計 (円)
初期消火実施 (成功)	856	0	101	48,426,535
初期消火実施 (失敗)	216	21	6,348	1,245,980,183
初期消火なし	410	60	7,253	1,592,852,169
自然鎮火していた	242	1	14	5,005,055
合計	1,724	82	13,716	2,892,263,942

参考 消火器具

➤ 消火器具を使用した火災の奏効率は **75.5%**

(図 1-13、1-14)

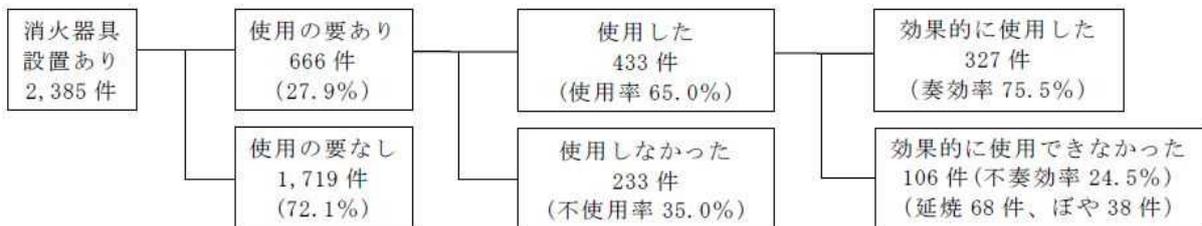


図 1-13 政令対象物における消火器具の使用状況 (『令和 7 年版火災の実態』より引用)

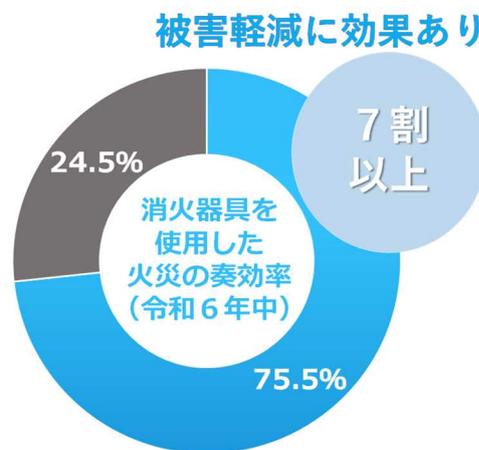


図 1-14 消火器具を使用した火災の奏効率

参考 リチウムイオン電池関連火災

リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池を搭載した製品（差込みプラグ及び器具コードを除く）から出火した火災のことをいいます。リチウムイオン電池に起因する住宅火災は、近年急増しています。

- 令和6年中は115件発生し、過去最多
- 出火原因は、モバイルバッテリーが35件で一番多い
- 出火時の状況内訳は充電中が約6割を占める

(表1-12、図1-15、図1-16)

表1-12 住宅火災によるリチウムイオン電池関連火災件数

モバイルバッテリー	35件
充電式カミソリ	13件
携帯電話機	10件
コードレス掃除機	9件
ポータブル電源	8件
電動アシスト付自転車	6件
タブレット	5件
ワイヤレスイヤホン	5件
電動工具	4件
ノートパソコン	3件
ファン付き作業着等バッテリー	2件
その他	15件
合計	115件

※発生が1件のものは「その他」に分類し、携帯扇風機、ビデオカメラ、音楽プレーヤーなどがあります。

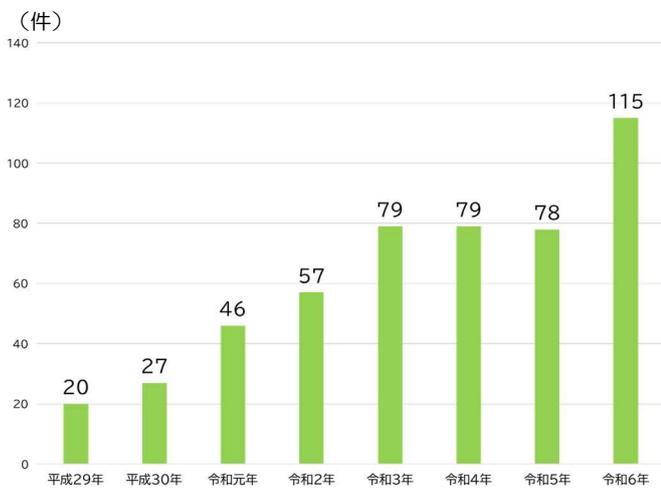


図1-15 住宅火災によるリチウムイオン電池関連火災件数

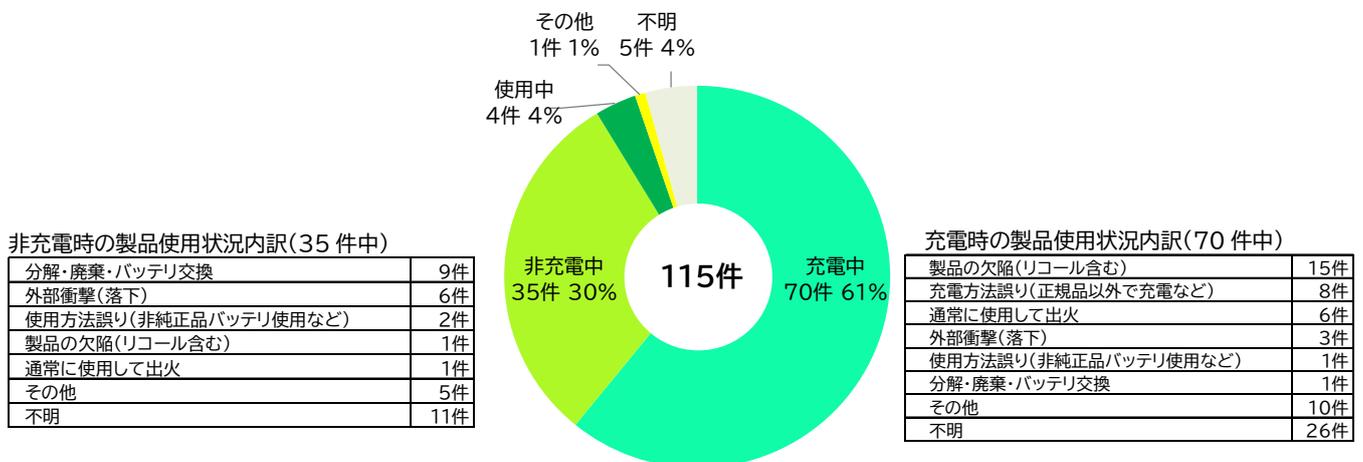


図1-16 住宅火災における出火時の状況内訳

参考 電気コード火災等

住宅火災のうち、電気が関係する漏電や電線の短絡、スパーク、半断線、トラッキング等による発熱によって起こる火災を「電気コード火災等」とする

- 令和6年中は **488** 件発生し、過去10年で**最多**
- 内訳としては「**電線が短絡する**」が **233** 件と最も多く、平成27年と比べ約**3倍**に増加

(図 1-17)

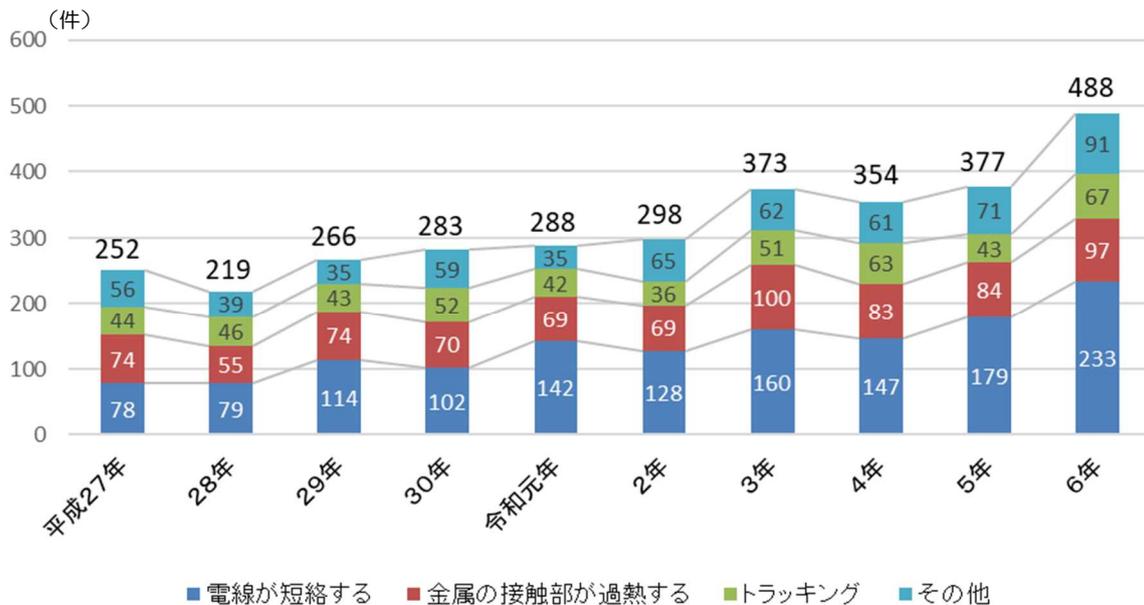


図 1-17 過去10年の住宅火災における電気コード火災等の火災件数の推移

3 住宅火災による死傷者の状況

(1) 出火原因別

ア 死者が発生した住宅火災の出火原因

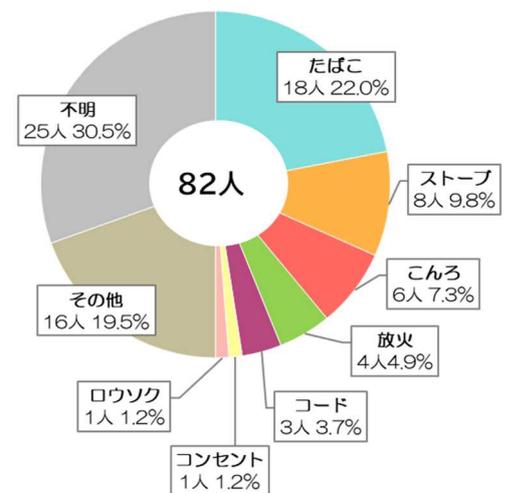
- 住宅火災による死者82人中、「たばこ」18人(22.0%)、「ストーブ」8人(9.8%)、「こんろ」6人(7.3%)の順で多く発生
- 死者が生じた火災発生率は「たばこ」9.0%、「ストーブ」8.0%の順で高い

(表 1-13、表 1-14、図 1-18)

表 1-13 出火原因別死者数

出火原因	死者数 (高齢者数)	死者発生 火災件数	住宅 火災件数	死者が生じた 火災発生率
たばこ	18(12)	18	201	9.0%
ストーブ	8(7)	7	87	8.0%
こんろ	6(4)	6	337	1.8%
コード	3(3)	3	48	6.3%
コンセント	1(1)	1	50	2.0%
ロウソク	1(1)	1	31	3.2%
放火	4(1)	3	98	3.1%
その他	16(12)	14	711	2.0%
不明	25(17)	21	161	13.0%
合計	82(58)	74	1,724	4.3%

図 1-18 出火原因別死者



- ※1 「こんろ」は、ガステーブル等及び電気こんろを合わせたものです。
 ※2 「放火」は、放火の疑いを含みます。
 ※3 「ストーブ」は、電気、ガス及び石油を合わせたものです。

表 1-14 過去5年の出火原因別死者発生数

出火原因	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
たばこ	13	15	15	14	18	+4
ストーブ	9	9	8	9	8	-1
こんろ	4	6	3	6	6	±0
コード	3	4	5	4	3	-1
コンセント	—	—	—	—	1	+1
ロウソク	—	1	4	4	1	-3
差込みプラグ	—	—	3	—	—	—
放火	8	3	10	6	4	-2
その他	3	9	4	4	16	+12
不明	31	22	19	20	25	+5
合計	71	69	71	67	82	+15

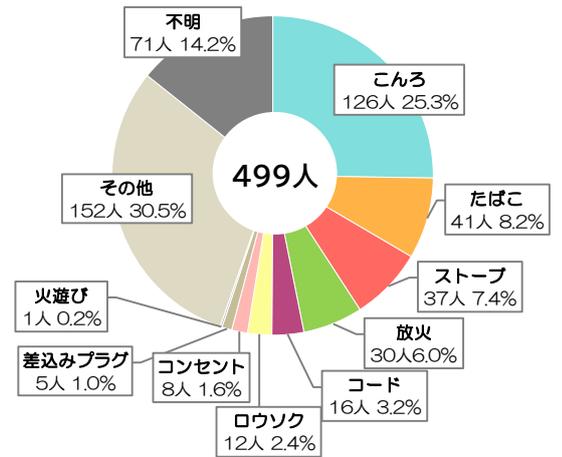
イ 負傷者が発生した住宅火災の出火原因

- 住宅火災による負傷者は **499 人**
- 出火原因別にみると、「こんろ」が **126 人(25.3%)**で最も多く、次いで「たばこ」が **41 人(8.2%)**、「ストーブ」が **37 人(7.4%)**発生
- 負傷者の発生率をみると、住宅火災 **1724 件中 386 件(22.4%)**で負傷者が発生
- 「ロウソク」、「ストーブ」が原因で発生した火災では約 **4 割**の火災で負傷者が発生
(表 1-15、1-16、図 1-19)

表 1-15 出火原因別負傷者数

出火原因	負傷者数 (高齢者数)	負傷者発生 火災件数	住宅 火災件数	負傷者が生じた 火災発生率
こんろ	126(48)	102	337	30.3%
たばこ	41(19)	38	201	18.9%
ストーブ	37(20)	31	87	35.6%
放火	30(8)	22	98	22.4%
コード	16(2)	12	48	25.0%
ロウソク	12(5)	12	31	38.7%
コンセント	8(1)	8	50	16.0%
差込みプラグ	5(2)	4	34	11.8%
火遊び	1(0)	1	9	11.1%
その他	152(32)	113	668	16.9%
不明	71(18)	43	161	26.7%
合計	499(155)	386	1,724	22.4%

図 1-19 出火原因別負傷者割合



- ※1 「こんろ」は、ガステーブル等及び電気こんろを合わせたものです。
 2 「放火」は、放火の疑いを含みます。
 3 「ストーブ」は、電気、ガス及び石油を合わせたものです。

表 1-16 過去 5 年の出火原因別負傷者発生数

出火原因	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
こんろ	162	113	112	144	126	-18
たばこ	58	81	64	68	41	-27
ストーブ	45	41	43	45	37	-8
放火	35	8	33	19	30	+11
コード	16	13	16	21	16	-5
ロウソク	17	24	17	26	12	-14
コンセント	8	4	3	6	8	+2
差込みプラグ	3	12	10	2	5	+3
火遊び	1	2	1	3	1	-2
その他	85	126	146	128	152	+24
不明	80	48	61	43	71	+28
合計	510	472	506	505	499	-6

(2) 着火物別

ア 死者が発生した住宅火災の着火物

- 「布団類」が15人(18.3%)と最も多い
 - 次いで「くず類」が11人(13.4%)、「衣類・繊維類」が7人(8.5%)と続く
- (表1-17、1-18、図1-20)

表 1-17 着火物別死者数

着火物	死者数 (高齢者数)	死者発生 火災件数	住宅 火災件数	死者が生じた 火災発生率
布団類	15(13)	14	119	11.8%
くず類	11(6)	11	219	5.0%
衣類・繊維類	7(5)	6	121	5.0%
紙類	6(3)	5	132	3.8%
内装・建具・家具類	6(5)	6	123	4.9%
着衣	2(1)	2	47	4.3%
ガス類	1(1)	1	76	1.3%
その他	10(7)	8	776	1.0%
不明	24(17)	21	111	18.9%
合計	82(58)	74	1,724	4.3%

図 1-20 着火物別死者の割合

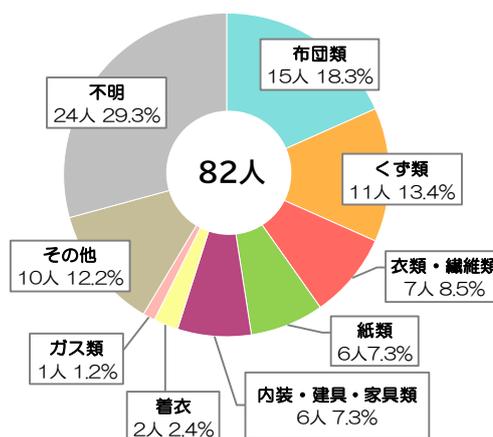


表 1-18 過去5年の出火原因別死者発生数

着火物	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
布団類	12	7	12	15	15	±0
くず類	4	9	7	7	11	+4
衣類・繊維類	9	7	8	9	7	-2
紙類	2	1	11	4	6	+2
内装・建具・家具類	3	3	3	6	6	±0
着衣	4	1	2	3	2	-1
ガス類	0	1	1	0	1	+1
その他	3	7	5	3	10	+7
不明	34	33	22	20	24	+4
合計	71	69	71	67	82	+15

イ 負傷者が発生した住宅火災の着火物

- 着火物別の負傷者の発生状況をみると、「着衣」が**48人(9.6%)**と最も多い
- 次いで「くす類」「紙類」「ガス類」が**45人(9.0%)**と続く
- 「着衣」に着火した火災は**9割以上で負傷者が発生**

(表 1-19、1-20、図 1-21)

表 1-19 着火物別死者数

着火物	負傷者数 (高齢者数)	負傷者発生 火災件数	住宅 火災件数	負傷者が生じた 火災発生率
着衣	48(28)	43	47	91.5%
くす類	45(11)	34	219	15.5%
紙類	45(12)	29	132	22.0%
ガス類	45(7)	39	76	51.3%
衣類・繊維類	40(16)	34	121	28.1%
布団類	38(17)	33	119	27.7%
てんぷら油	33(10)	26	123	21.1%
内装・建具・家具類	32(3)	27	81	33.3%
その他	104(27)	84	695	12.1%
不明	69(24)	37	111	33.3%
合計	499(155)	386	1,724	22.4%

図 1-21 着火物別負傷者の割合

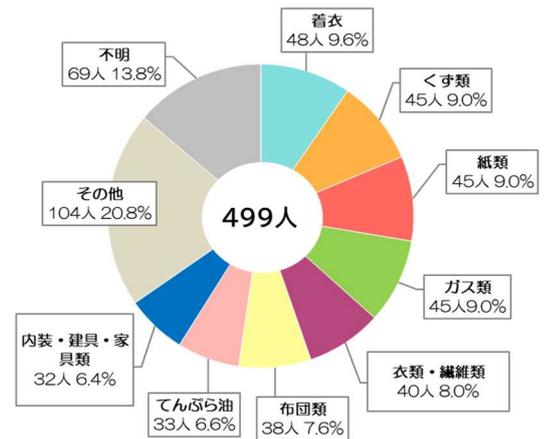


表 1-20 過去5年の出火原因別負傷者発生数

着火物	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
着衣	47	42	43	49	48	-1
くす類	42	33	51	56	45	-11
紙類	16	44	37	43	45	+2
ガス類	52	49	47	52	45	-7
衣類・繊維類	63	39	38	45	40	-5
布団類	73	60	53	55	38	-17
てんぷら油	50	32	30	29	33	+4
内装・建具・家具類	23	22	24	29	32	+3
その他	79	93	122	105	104	-1
不明	65	58	61	42	69	+27
合計	510	472	506	505	499	-6

(3) 出火箇所別

ア 死者が発生した住宅火災の出火箇所

- 出火箇所別の死者発生状況を見ると、「居室等」が**64人(78.0%)**と最も多い
- 次いで「台所・キッチン等」が**11人(13.4%)**発生
- 「居室等」と「台所・キッチン等」を合わせると**9割以上**を占める

(表 1-21、1-22、図 1-22)

表 1-21 出火原因別死者数

出火箇所	死者数 (高齢者数)	死者発生 火災件数	住宅 火災件数	死者が生じた 火災発生率
居室等	64(45)	59	751	7.9%
台所・ キッチン等	11(8)	8	659	1.2%
便所・洗面 所・浴室等	3(1)	3	80	3.8%
玄関・ホール	1(1)	1	41	2.4%
その他	3(3)	3	193	1.6%
合計	82(58)	74	1,724	4.3%

図 1-22 出火原因別死者の割合

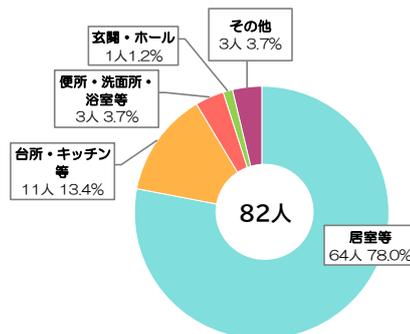


表 1-22 過去 5 年の出火原因別死者発生数

出火箇所	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
居室等	49	53	46	58	64	+6
台所・キッチン等	14	13	11	7	11	+4
便所・洗面所・浴室等	4	—	—	—	3	+3
玄関・ホール	—	—	8	1	1	±0
廊下・階段等	1	—	3	—	—	—
車庫・駐車場等	—	3	—	—	—	—
その他	1	—	3	1	3	+2
合計	71	69	71	67	82	+15

イ 負傷者が発生した住宅火災の出火箇所

- 出火箇所別の負傷者の発生状況をみると、「居室等」が**261人(52.3%)**と最も多い
- 次いで「台所・キッチン等」が**191人(38.3%)**発生
- 「居室等」と「台所・キッチン等」を合わせると**9割以上**を占める

(表 1-23、1-24、図 1-23)

表 1-23 出火箇所別負傷者数

出火箇所	負傷者数 (高齢者数)	負傷者発生 火災件数	住宅 火災件数	負傷者が生じた 火災発生率
居室等	261(78)	190	751	25.3%
台所・ キッチン等	191(63)	158	659	24.0%
便所・洗面 所・浴室等	14(6)	12	80	15.0%
玄関・ホール	8(4)	6	41	14.6%
廊下・階段等	3(0)	3	23	13.0%
車庫・ 駐車場等	1(1)	1	8	12.5%
その他	21(3)	16	162	9.9%
合計	499(155)	386	1,724	22.4%

図 1-23 出火箇所別負傷者の割合

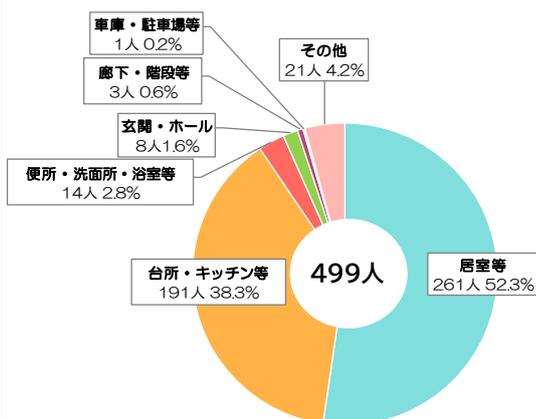


表 1-24 過去 5 年の出火原因別負傷者発生数

出火箇所	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
居室等	263	259	267	244	261	+17
台所・キッチン等	217	163	164	185	191	+6
便所・洗面所・浴室等	11	12	11	24	14	-10
玄関・ホール	0	3	10	7	8	+1
廊下・階段等	6	5	6	15	3	-12
車庫・駐車場等	3	0	3	11	1	-10
その他	10	29	45	19	21	+2
不明	0	1	0	0	0	±0
合計	510	472	506	505	499	-6

(4) 経過別

- 死者が発生した住宅火災の経過を見ると、「たばこ」で最も多いのは「火源の落下」、「ストーブ」で最も多いのは「可燃物の接触」、「こんろ」で最も多いのは「火源が接触する」、「コード」で最も多いのは「電線が短絡する」とそれぞれなっている。

(図1-24、表1-25)

図1-24 死者が発生した住宅火災（たばこ、ストーブ、こんろ、コードの上位4項目）の経過

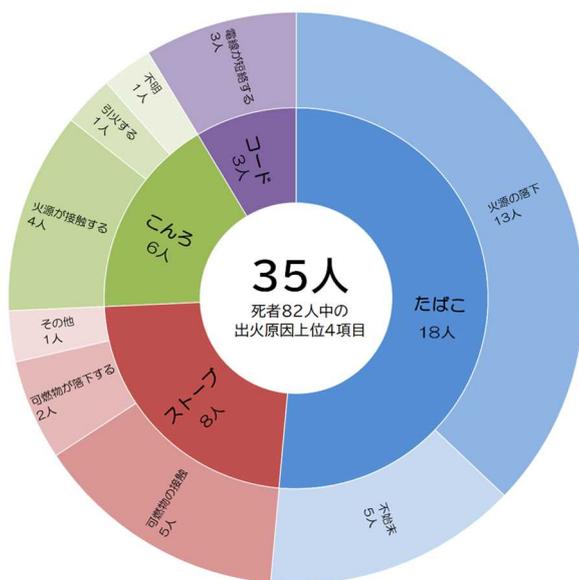


表1-25 死者が発生した住宅火災の経過

出火原因	経過	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
たばこ	火源の落下	10	9	9	9	13	+4
	不始末	3	5	5	3	5	+2
	その他・不明	—	1	1	2	—	-2
ストーブ	可燃物の接触	5	3	7	6	5	-1
	可燃物が落下	3	—	—	—	2	+2
	その他・不明	1	6	1	3	1	-2
こんろ	可燃物の接触	4	4	2	4	4	±0
	引火する	—	—	1	—	1	+1
	その他・不明	—	2	—	2	1	-1
コード	電線の短絡	3	1	5	4	3	-1
	その他・不明	—	3	—	—	—	±0
合計		29	34	31	33	35	+2

(5) 月別・時間帯別

ア 月別の住宅火災による死者発生状況

- 月別死者数は、12月が**17人**で最も多く、次いで11月が**13人**、1月が**10人**の順で多く発生
- 月別負傷者数は、1月が**65人**で最も多く、次いで12月が**57人**の順で発生
- 月別の住宅火災件数、死者数及び負傷者数は、いずれも火災多発期(12月1日から3月31日までの間)の期間中あるいはその前後の期間で多く発生
- 11月から1月は、住宅火災件数・死者数・負傷者数いずれも多く発生しており、さらに死者発生率も**5~7%以上**と高く推移

(表 1-26、図 1-25)

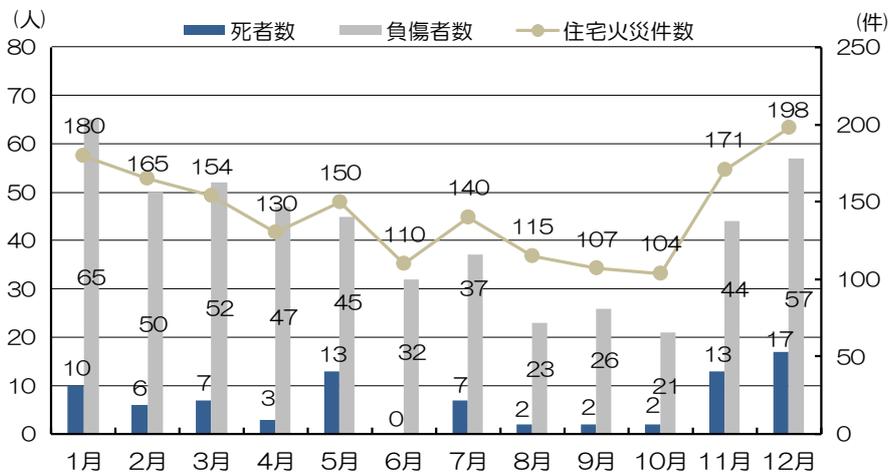
表 1-26 月別死者発生状況

出火月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
住宅火災件数	180	165	154	130	150	110	140	115	107	104	171	198	1724
死者発生住宅火災件数	9	6	6	3	12	0	6	2	2	2	12	14	74
負傷者発生住宅火災件数	45	38	38	34	35	26	36	18	22	20	30	44	386
負傷者数	65	50	52	47	45	32	37	23	26	21	44	57	499
負傷者発生率※1	25.0%	23.0%	24.7%	26.2%	23.3%	23.6%	25.7%	15.7%	20.6%	19.2%	17.5%	22.2%	22.4%
高齢者負傷者数	24	18	16	11	21	6	11	4	8	6	12	18	155
死者数	10	6	7	3	13	0	7	2	2	2	13	17	82
死者発生率※2	5.0%	3.6%	3.9%	2.3%	8.0%	0.0%	4.3%	1.7%	1.9%	1.9%	7.0%	7.1%	4.3%
高齢者死者数	8	5	5	3	7	0	5	0	2	2	11	10	58

※1 負傷者発生率＝負傷者発生住宅火災件数／住宅火災件数

※2 死者発生率＝発生死者住宅火災件数／住宅火災件数

図 1-25 月別の住宅火災件数と死傷者数



イ 時間帯別の住宅火災による死者発生状況

- 死者発生率は4時から5時台が**12.5%**と最も高い
- 負傷者発生率は0時から5時台が**30%台**を超える
- 時間帯別に死者の発生状況を見ると、0時から5時台までの間に死者の発生が多い傾向

(表 1-27、図 1-26)

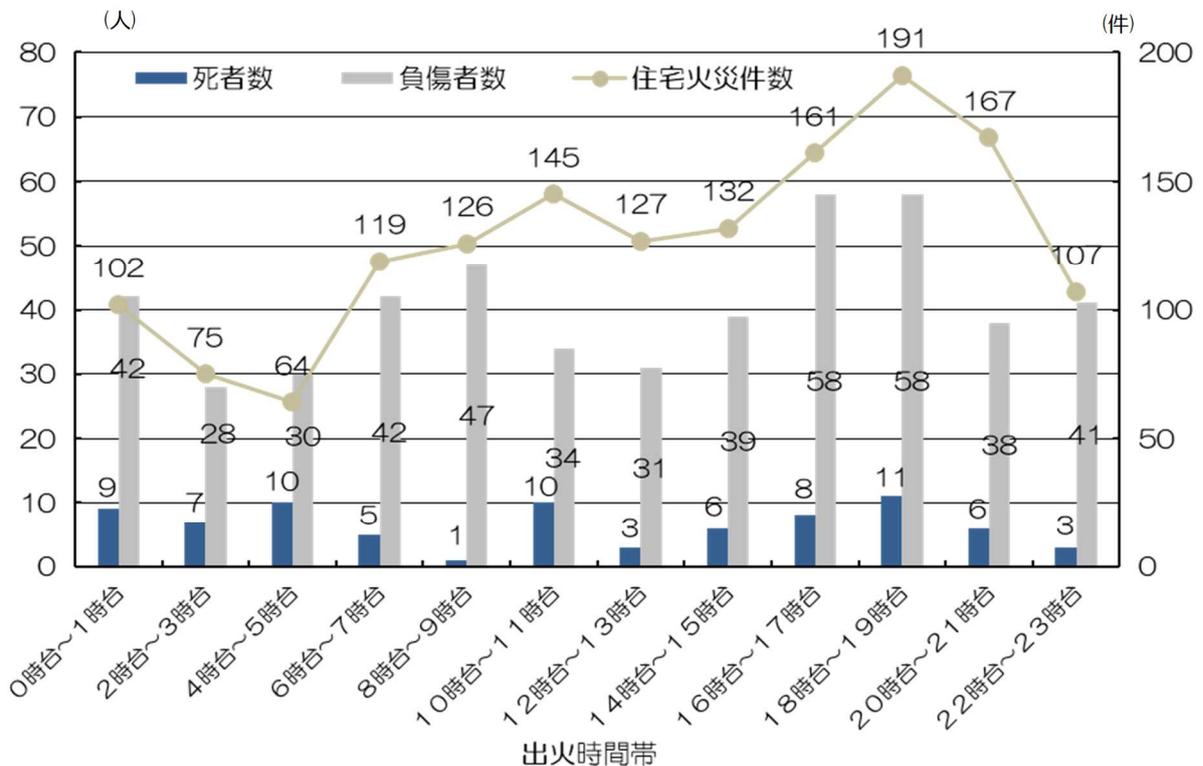
表 1-27 時間帯別死傷者発生状況

出火時間帯	0時台 ～ 1時台	2時台 ～ 3時台	4時台 ～ 5時台	6時台 ～ 7時台	8時台 ～ 9時台	10時台 ～ 11時台	12時台 ～ 13時台	14時台 ～ 15時台	16時台 ～ 17時台	18時台 ～ 19時台	20時台 ～ 21時台	22時台 ～ 23時台	不明	合計
住宅火災件数	102	75	64	119	126	145	127	132	161	191	167	107	208	1,724
死者発生住宅火災件数	9	6	8	4	1	10	3	6	7	10	6	2	2	74
負傷者発生住宅火災件数	32	24	21	35	31	29	28	30	39	47	36	23	11	386
負傷者数	42	28	30	42	47	34	31	39	58	58	38	41	11	499
負傷者発生率※	31.4%	32.0%	32.8%	29.4%	24.6%	20.0%	22.0%	22.7%	24.2%	24.6%	21.6%	21.5%	5.3%	22.4%
高齢者負傷者数	7	6	5	17	17	15	11	15	20	18	9	11	4	155
死者数	9	7	10	5	1	10	3	6	8	11	6	3	3	82
死者発生率※2	8.8%	8.0%	12.5%	3.4%	0.8%	6.9%	2.4%	4.5%	4.3%	5.2%	3.6%	1.9%	1.0%	4.3%
高齢者死者数	8	4	6	5		8	2	4	7	6	4	3	1	58

※1 負傷者発生率＝負傷者発生住宅火災件数／住宅火災件数

※2 死者発生率＝死者発生住宅火災件数／住宅火災件数

図 1-26 時間帯別の住宅火災件数と死傷者数



(1) 受傷程度別

ア 受傷程度ごとの高齢者の割合

➤ 受傷程度が重くなるにつれ、高齢者の割合が増加

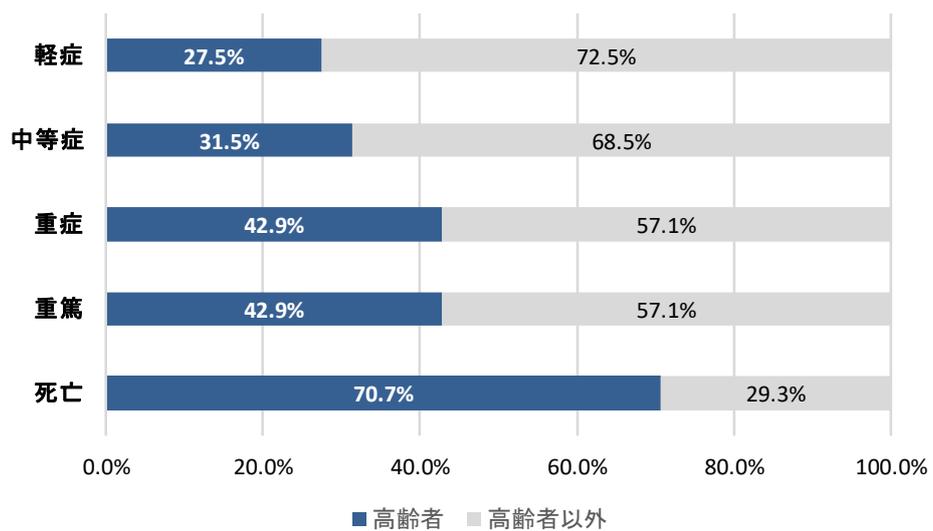
(表 1-28、図 1-27)

表 1-28 令和6年中住宅火災における死傷者の受傷程度

受傷程度	高齢者	高齢者以外	総計	高齢者の割合
軽症	80	211	291	27.5%
中等症	39	85	124	31.5%
重症	6	8	14	42.9%
重篤	30	40	70	42.9%
死亡	58	24	82	70.7%
総計	213	368	581	36.7%



図 1-27 令和6年中住宅火災における死傷者の受傷程度ごとの高齢者の割合



イ 焼損程度ごとの受傷程度の割合

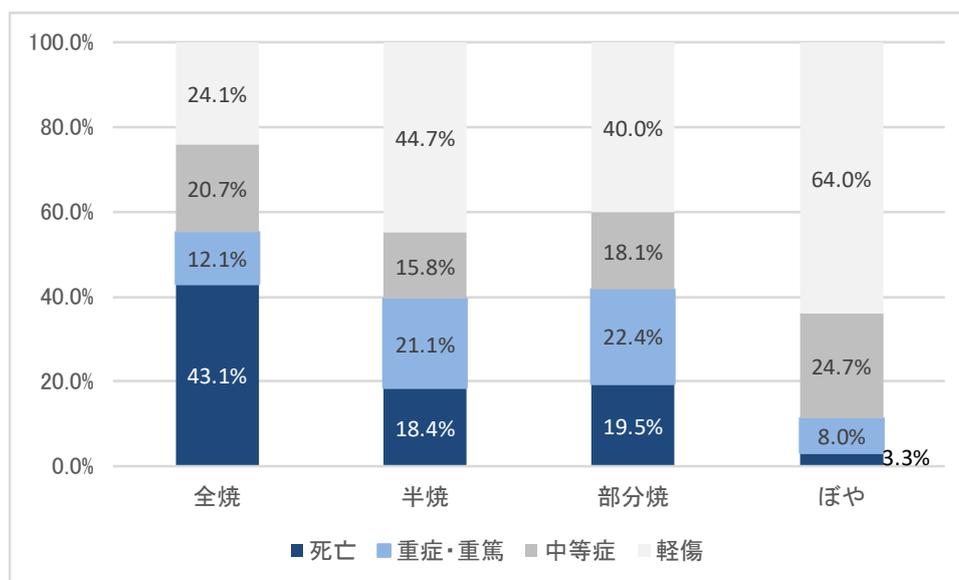
- 全焼した住宅火災の死傷者の内訳をみると、死者が**43.1%**の割合で発生しており、最も大きな割合を占める
- 焼損被害が比較的少ない**部分焼**や**ぼや**火災においても**死者が発生**

(表 1-29、図 1-28)

表 1-29 令和6年中住宅火災における焼損程度と受傷程度

	全焼	半焼	部分焼	ぼや	総計
軽傷	14	17	84	176	291
中等症	12	6	38	68	124
重症	5	7	39	19	70
重篤	2	1	8	3	14
死亡	25	7	41	9	82
合計	58	38	210	275	581

図 1-28 焼損程度ごとの受傷程度の割合



(7) 年齢別・性別の死者発生状況

➤ 住宅火災の死者を年齢別に見ると、男性は70代の17人、女性は80代の11人が最も多い

(図 1-29、表 1-30)

図 1-29 年齢別・性別の死者発生状況

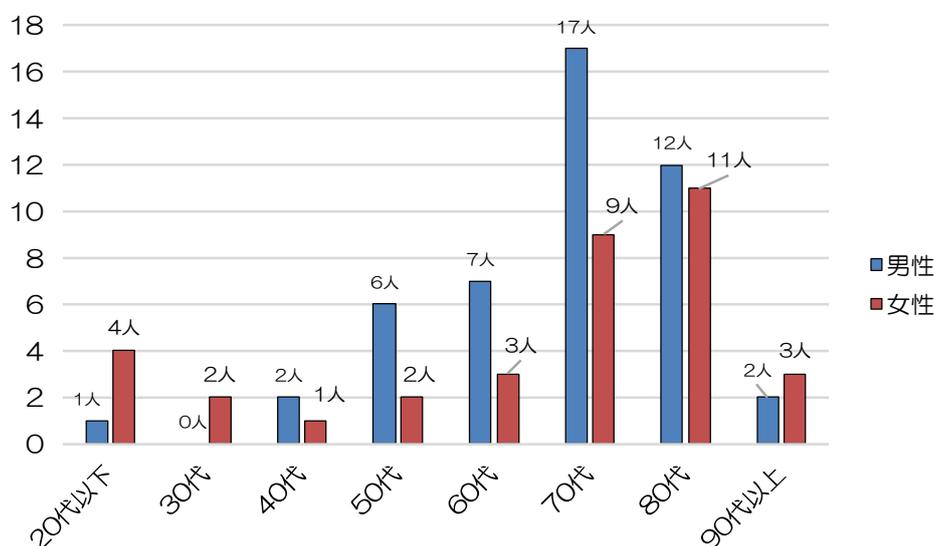


表 1-30 過去5年の年齢別・性別の死者発生状況

年齢		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
20代以下	男性	1	0	2	0	1	+1
	女性	0	0	0	0	4	+4
30代	男性	1	0	1	3	0	-3
	女性	1	0	0	0	2	+2
40代	男性	2	2	1	2	2	±0
	女性	1	2	1	0	1	+1
50代	男性	7	4	9	5	6	+1
	女性	1	2	3	2	2	±0
60代	男性	3	7	5	9	7	-2
	女性	4	4	5	2	3	+1
70代	男性	10	7	17	17	17	±0
	女性	6	12	8	3	9	+6
80代	男性	17	11	3	10	12	+2
	女性	10	11	9	7	11	+4
90代以上	男性	2	3	5	2	2	±0
	女性	5	4	2	5	3	-2

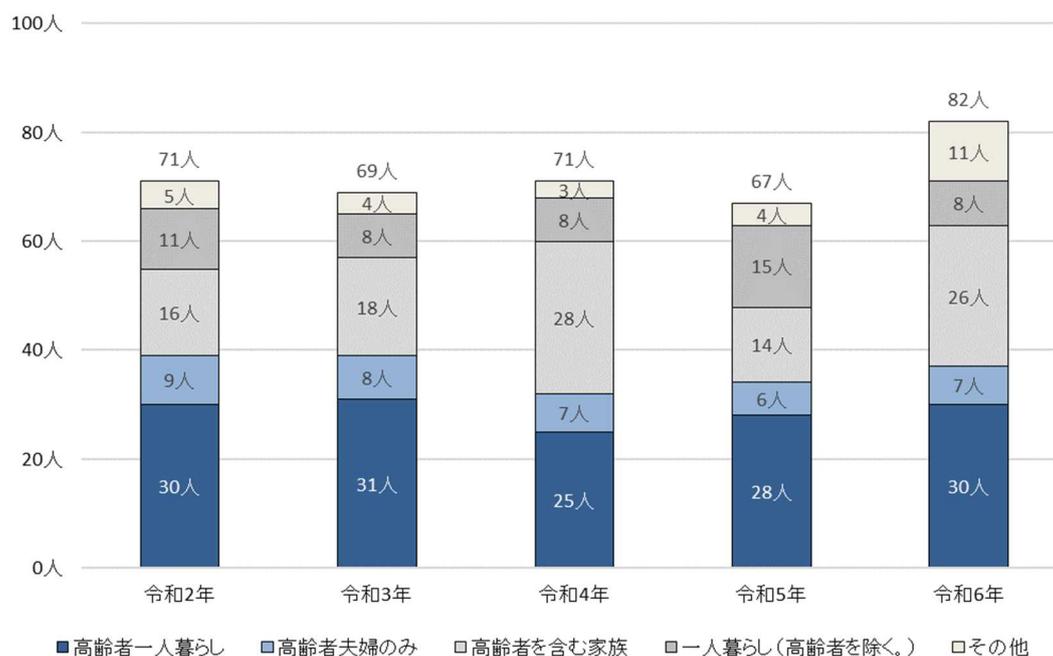
(8) 世帯構成別の死者発生状況

住宅火災が発生した世帯の構成を、「一人暮らし（高齢者を除く）」、「高齢者を含む家族」、「高齢者夫婦のみ」、「高齢者一人暮らし」、「その他」に分ける。このうち、「高齢者一人暮らし」と「高齢者夫婦のみ」の世帯を合わせて「高齢者のみの世帯」と呼ぶ。

- 住宅火災の死者は、「**高齢者一人暮らし**」世帯で最も多く発生
- 令和6年中は住宅火災における死者発生のうち約**5割**が「**高齢者のみ世帯**」で発生しており、過去5年をみても約**5割前後**で推移

(図 1-30)

図 1-30 過去5年の世帯構成別の住宅火災による死者発生状況



(9) 住宅火災発生時の行為別

ア 行為別の住宅火災による死者発生状況(死者 82 人中)

- 「就寝中」が 12 人と最も多い
- 「就寝中」には「たばこ」によるものが 5 件発生

(表 1-31、表 1-32)

表 1-31 死者の行為状態

宅火災時の行為	死者数 (高齢者数)	割合
就寝中	12(8)	14.6%
休憩・休憩中	4(4)	4.9%
自損を図った	2(0)	2.4%
家事従業中	1(0)	1.2%
作業中	1(0)	1.2%
その他	2(2)	2.4%
不明	60(44)	73.2%
合計	82(58)	100.0%

表 1-32 就寝中の死者発生状況

出火原因	死者数 (高齢者数)	割合
たばこ	5(4)	41.7%
ストーブ	2(2)	16.7%
放火	2(0)	16.7%
コード	1(1)	8.3%
不明	2(1)	16.7%
合計	12(8)	100.0%

布団等に落ちたたばこの火種は、しばらく無炎燃焼（炎を出さずに燃え広がること）を続け、気付いた時には室内に一酸化炭素等の有毒ガスが充満して、避難行動がとれずに命を落とす危険がある。

イ 行為別の住宅火災による負傷者発生状況

- 「初期消火中」が**122人(24.4%)**と最も多い
- 次いで「家事従業中」が**71人(14.2%)**、「避難中」が**59人(11.8%)**と続く
- 負傷者が最も多く発生した「初期消火中」は、消火に手間取ったことにより負傷したものが多い

(表 1-33、表 1-34)

表 1-33 負傷者の行為状態

住宅火災時の行為	負傷者数 (高齢者数)	割合
初期消火中	122(30)	24.4%
家事従業中	71(33)	14.2%
避難中	59(16)	11.8%
就寝中	53(13)	10.6%
休憩・休憩中	44(16)	8.8%
作業中	35(9)	7.0%
飲食中	9(1)	1.8%
自損を図った	6(0)	1.2%
火遊び中	5(1)	1.0%
救助中	4(2)	0.8%
火災通報中	2(0)	0.4%
見物中	1(1)	0.2%
採暖中	1(0)	0.2%
消防隊に協力中	1(1)	0.2%
その他	45(12)	9.0%
不明	41(20)	8.2%
合計	499(155)	100.0%

表 1-34 初期消火中の負傷者発生状況

出火原因	負傷者数 (高齢者数)	高齢者割合
消火に手間取った	38(11)	31.1%
火に接近しすぎた	33(12)	27.0%
消火のために燃焼物に触れた	24(4)	19.7%
煙、ガスを吸い動けなかった	2(1)	1.6%
自ら消火する能力が無かった	2(0)	1.6%
避難後物取りに戻った	2(1)	1.6%
停電や暗がりだった	1(1)	0.8%
その他	18(0)	14.8%
不明	2(0)	1.6%
合計	122(30)	100.0%

初期消火は

「自身に危険が及ばない範囲」で行い、危険を感じたらすぐに避難することが大切である。

4 住宅火用火災警報器等の概要

(1) 住宅火災警報器等の設置率及び住宅火災の件数の推移

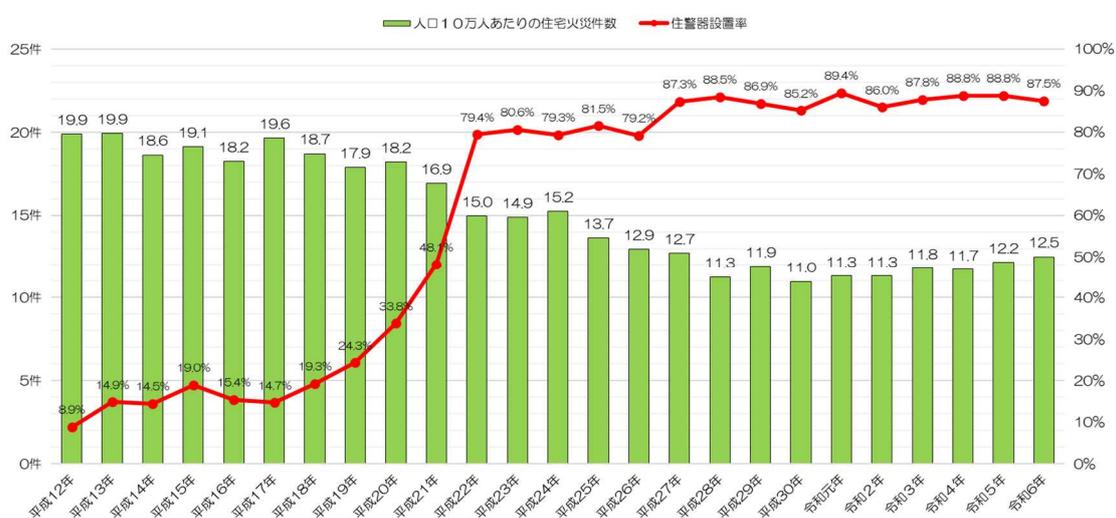
住宅用火災警報器（以下、住警器という）等※の設置率及び住宅火災件数の推移について、平成12年から、令和6年までの推移をみる。

※ 住警器等とは、自動火災報知設備（以下、自火報という）等を含む。

- 住警器等の設置率上昇に伴い、人口10万人あたりの住宅火災件数は減少
- 住警器等の設置率は平成27年から約9割で推移
- 平成25年以降の人口10万人あたりの住宅火災件数は、10件前半で推移

(図 1-31)

図 1-31 住警器等設置率と人口10万人あたりの住宅火災件数の推移
(平成12年～令和6年)



※令和6年より算出方法が一部変更しています。

(2) 住宅火災における住警器等の設置状況

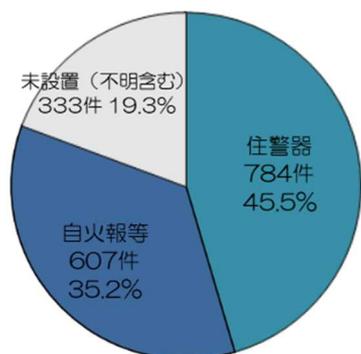
ア 住警器等の設置有無別住宅火災件数及び死者数

住宅火災 1,724 件と住宅火災による死者 82 人（自損を除く）を、住警器等の設置有無別にみる。

- 住警器等が設置（一部設置を含む）されていた住宅火災は**784件(45.5%)**、死者は**33人(40.2%)**発生
- 自火報等が設置されていた住宅火災は **607件(35.2%)**、死者は **12人(14.6%)**発生
- 住警器等が未設置（設置不明を含む）だった住宅火災は **333件(19.3%)**発生し、死者は**37人(45.1%)**発生

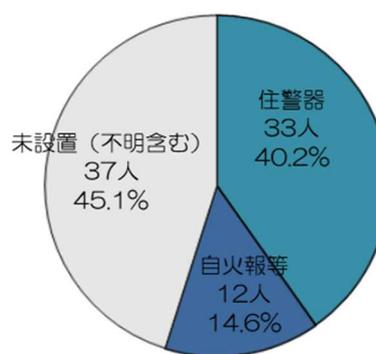
（図 1-32、図 1-33）

図 1-32 住警器等設置有無別住宅火災件数



n=1,724

図 1-33 住警器等設置有無別死者数



n=82

イ 住警器等設置有無別死傷者の発生状況

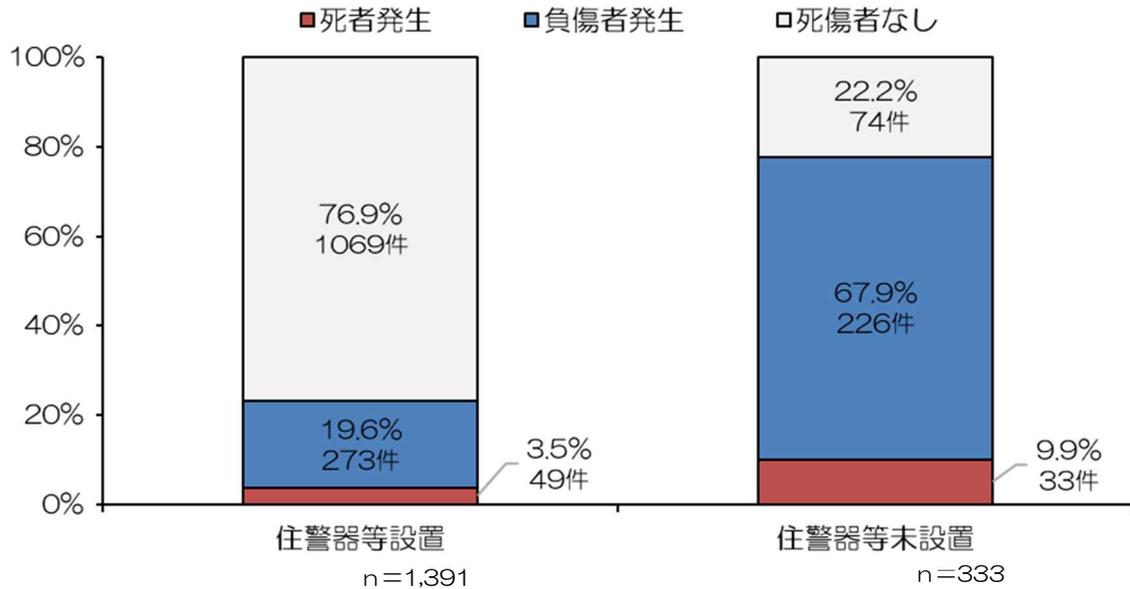
住警器等設置有無別に、死傷者等の発生割合をみる。

- 住警器等**未設置**の住宅火災件数は **333件**発生
- 住警器等未設置のうち、死者発生火災件数（死者及び負傷者の両方が発生した火災を含む）は **33件(9.9%)**、負傷者のみの発生件数は **226件(67.9%)**発生
- 住警器等**設置**の住宅火災件数は **1,391件**発生
- 住警器等設置のうち、死者発生火災件数は **49件(3.5%)**、負傷者のみの発生件数は **273件(19.6%)**発生

(図 1-34)

以上のことから、住警器等未設置の方が、死傷者が発生する件数の割合が高いことがわかる。

図 1-34 住警器等設置有無別の死者及び負傷者が発生した住宅火災件数



(3) 住警器等設置有無別焼損等の比較

住警器等設置住宅における火災と住警器等未設置住宅における火災について比較する。

- 火災 1 件あたりの平均焼損床面積について、住警器等未設置住宅は **25.4m²**であるのに対し、設置住宅では**約 1/7の3.8m²**
- 火災 1 件あたりの平均損害額について、住警器等未設置住宅では **451 万円**であるのに対し、設置住宅では**約 1/5の 100 万円**
- 火災 100 件あたりの死者発生火災件数について、住警器等未設置住宅では **9.6 件**であるのに対し、設置住宅では**約 1/3の 3.0 件**

(図 1-35～図 1-37)

以上のことから、住警器等の設置は火災の被害軽減に効果的であることがわかる。

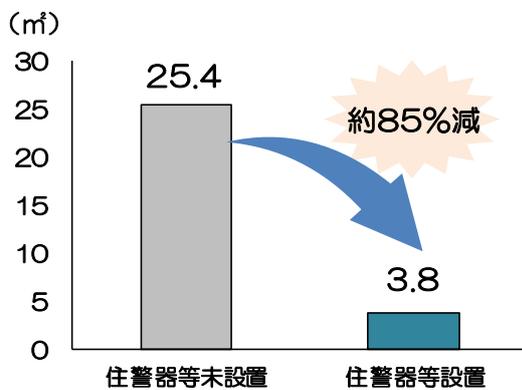


図 1-35 住警器等設置有無別の火災 1 件あたりの平均焼損床面積の比較

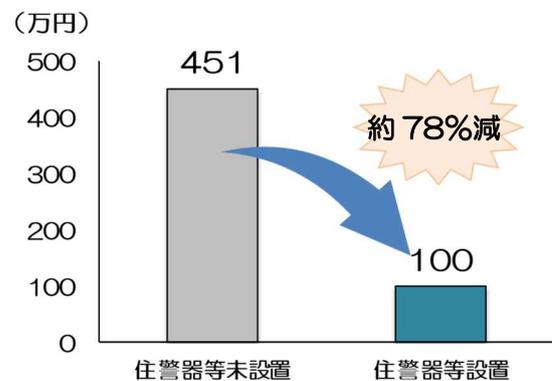


図 1-36 住警器等設置有無別の火災 1 件あたりの平均損害額の比較

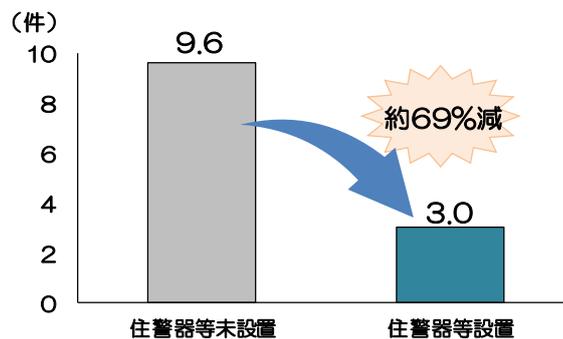


図 1-37 住警器等設置有無別の火災 100 件あたりの死者発生火災件数の比較

(4) 住警器全部設置・一部設置の焼損等比較

住警器が設置されていた住宅火災 784 件の住警器設置状況について、火災予防条例で定められたとおり全ての居室、台所、階段に設置されている住宅（以下「全部設置」という）と、一部のみに設置されている住宅（以下「一部設置」という）で比較する。

ア 設置状況別焼損程度

- 住宅火災のうち全部設置が **637 件(81.3%)**、一部設置が **147 件(18.7%)**
- 火災焼損程度別にみると、全部設置だった火災 **637 件中**、全焼及び半焼は計**19 件(3.0%)**に対し、一部設置だった火災 **147 件中**、全焼及び半焼は計 **13 件(8.8%)**

(図 1-38)

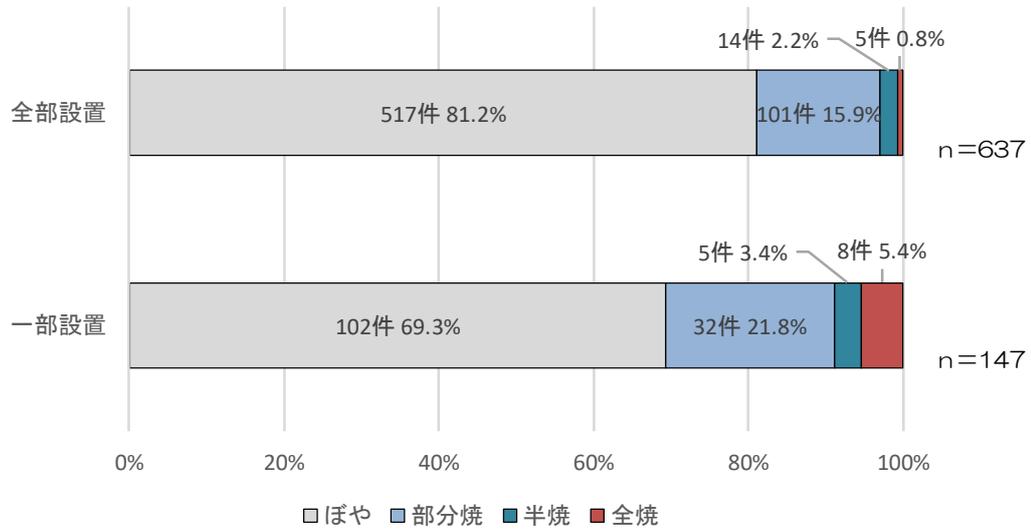


図 1-38 住警器全部設置と一部設置の焼損程度比較

イ 設置状況別火災 100 件あたりの死者発生火災件数

住警器の全部設置と一部設置の 100 件当たりの死者発生火災件数を比較する。

- 一部設置では **6.8 件** に対して、全部設置では **3.3 件** 発生
- 一部設置と比較して、住宅では全部設置の住宅で死者発生火災件数が**約半減**

(図 1-39)

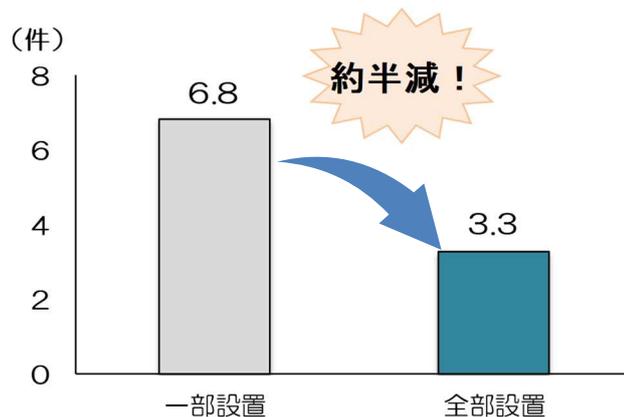


図 1-39 住警器設置状況別火災 100 件あたりの死者発生火災件数

(5) 住警器の作動状況

- ▶ 住宅用火災警報器の住宅火災での不作動率は令和6年で7.5%となり、令和5年と比較して減少

(図 1-40、表 1-35)

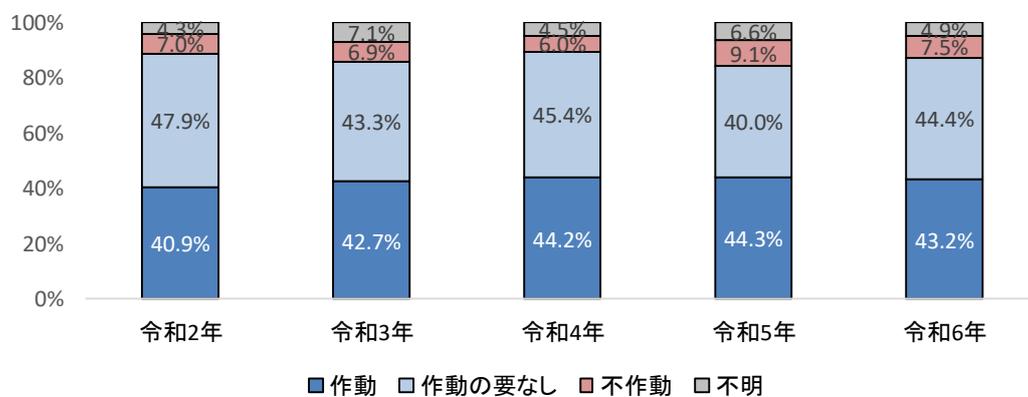


図 1-40 過去5年の住警器の作動状況の推移

表 1-35 過去5年の住警器の作動状況の推移

作動状況	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
作動した	288	324	326	337	339	+2
作動の要なし	338	328	335	304	348	+44
不作動	49	52	44	69	59	-10
不明	30	54	33	50	38	-12
合計	705	758	738	760	784	+24

5 高齢者の住宅火災の実態

(1) 高齢者の住宅火災の概要

- 住宅火災による高齢者の死者は **58人**、前年比 10人増加
- 住宅火災による高齢者の死者 58人のうち、後期高齢者は **42人**と高齢者全体の **72.0%**を占める
- 住宅火災のうち行為者が高齢者の火災は 28.2%であるのに対して、住宅火災による死者のうち行為者が高齢者の火災で死亡した割合は **60.0%**で高い割合を占める

(図 1-41、図 1-42、図 1-43)

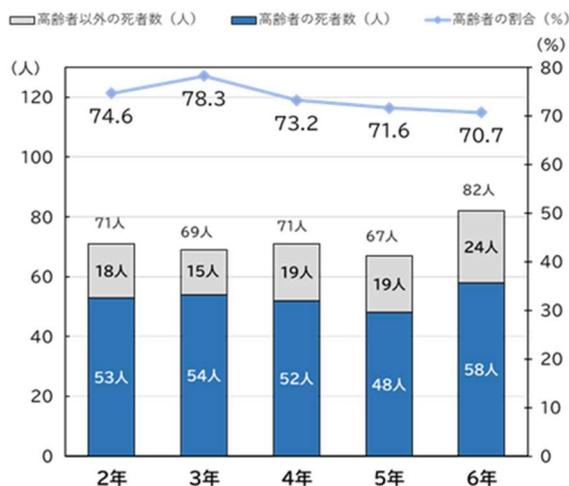


図 1-41 過去5年間の住宅火災による死者数と高齢者の割合 (図 1-4 再掲)

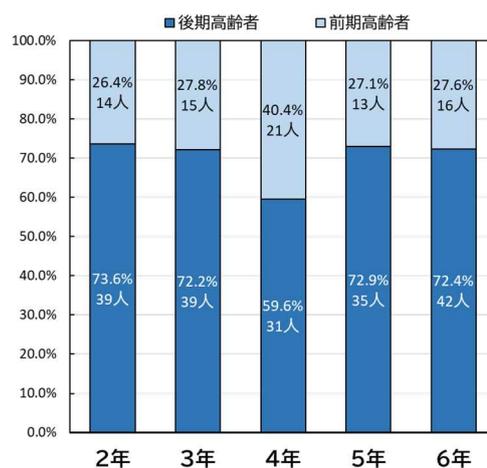


図 1-42 過去5年間の住宅火災による高齢者の死者の内訳

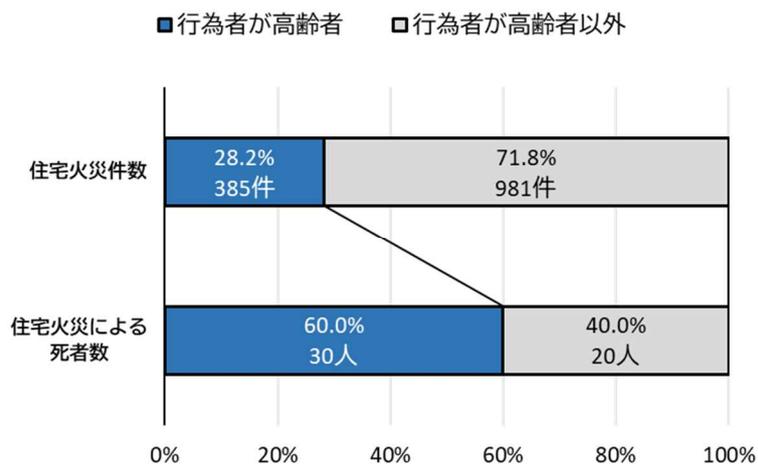


図 1-43 住宅火災の件数とその死者数の行為者年齢構成比較 (行為者不明を除く)

(2) 高齢者の住宅火災による死者の状況

ア 出火原因別

- 住宅火災による高齢者の死者 58 人中、「たばこ」12 人（20.7%）、「ストーブ」7 人（12.1%）、「こんろ」4 人（6.9%）の順で多く発生
- 住宅火災件数に対して、高齢者の死者が生じた火災の発生率は、「ストーブ」が 8.0%と最も高い

（表 1-36、表 1-37、図 1-44）

表 1-36 出火原因別高齢者死者

出火原因	高齢者死者数	住宅火災件数	高齢者の死者が生じた火災発生率
たばこ	12	201	6.0%
ストーブ	7	87	8.0%
こんろ	4	337	1.2%
コード	3	48	6.3%
ロウソク	1	31	3.2%
放火	1	98	1.0%
コンセント	1	50	2.0%
その他	12	711	1.7%
不明	17	161	10.6%
合計	58	1,724	3.4%

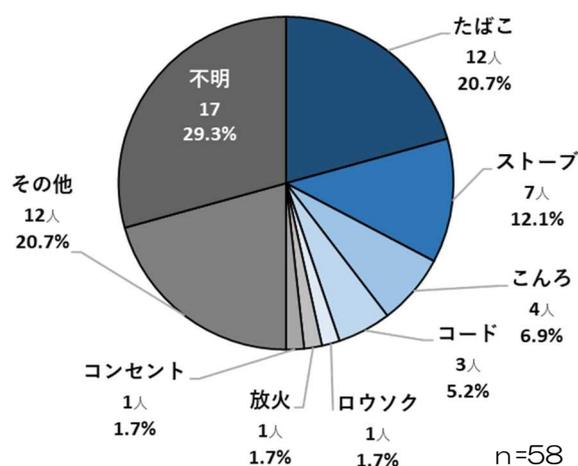


図 1-44 出火原因別高齢者の死者の割合

- ※1 「こんろ」は、ガステーブル等及び電気こんろを合わせたものです。
 ※2 「放火」は、放火の疑いを含みます。
 ※3 「ストーブ」は、電気、ガス及び石油を合わせたものです。

表 1-37 過去 5 年の出火原因別高齢者死者

出火原因	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	前年比
たばこ	8	9	10	11	12	+1
ストーブ	6	8	7	7	7	±0
こんろ	3	6	3	5	4	-1
コード	3	3	4	2	3	+1
ロウソク	0	1	3	4	1	-3
放火	4	1	5	1	1	±0
コンセント	0	0	0	0	1	+1
その他	2	9	6	3	12	+9
不明	27	17	14	15	17	+2
合計	53	54	52	48	58	+10

イ 着火物別

- 「布団類」が13人(22.4%)と、最も多い
- 次いで「くず類」が6人(10.3%)、「衣類・繊維類」が5人(8.6%)と続く
- 住宅火災件数に対して、高齢者の死者が生じた火災発生率は、「布団類」が10.9%と最も高い

(表 1-38、図 1-45)

表 1-38 着火物別高齢者死者数

	高齢者死者数	住宅火災件数	高齢者の死者が生じた火災発生率
布団類	13	119	10.9%
くず類	6	219	2.7%
衣類・繊維類	5	121	4.1%
内装・建具・家具類	5	123	4.1%
紙類	3	132	2.3%
着衣	1	47	2.1%
ガス類	1	76	1.3%
てんぷら油	0	81	0.0%
その他	7	695	1.0%
不明	17	111	15.3%
合計	58	1,724	3.4

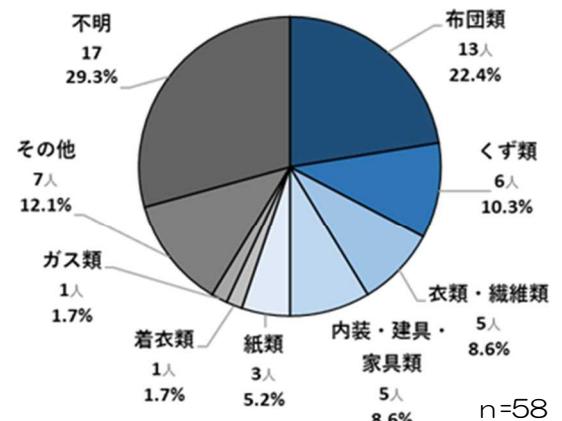


図 1-45 着火物別高齢者の死者の割合

ウ 出火箇所別

- 「居室等」が45人(77.6%)と最も多く、次いで「台所・キッチン等」が8人(13.8%)と続く
- 住宅火災件数に対して、高齢者の死者が生じた火災発生率は、「居室等」が6.0%と最も高い

(表 1-39、図 1-46)

	高齢者死者数	住宅火災件数	高齢者の死者が生じた火災発生率
居室等	45	751	6.0%
台所・キッチン等	8	659	1.2%
その他・不明	5	314	1.6%
合計	58	1,724	3.4%

表 1-39 出火箇所別高齢者死者

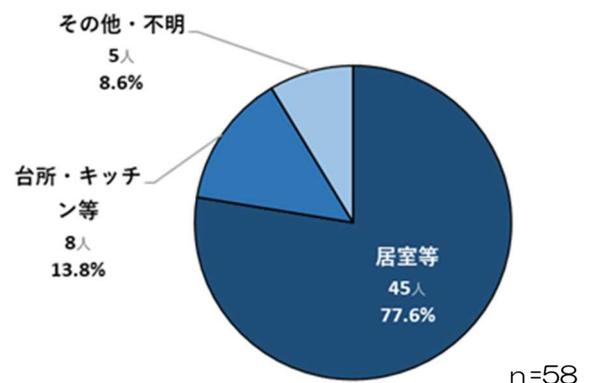


図 1-46 出火箇所別高齢者の死者の割合

(3) 高齢者の死者が発生した住宅火災の出火原因別上位3項目

ア たばこ

- たばこが出火原因の火災による高齢者の死者は 12 人中、「火源が落下する」9 人（75.0%）、「不適当な処に捨てる・投げ捨て」3 人（25.0%）の順で多く発生
- 経過別割合の「火源が落下する」は5年連続で最上位となり、直近5年間の平均では75.0%程度の割合を占める
- 過去5年における死傷程度別割合を比較すると、死傷程度が「中等症以上」の割合が、高齢者以外は47.7%（105人）であるのに対し、高齢者は65.1%（112人）と高い割合を占める
- 過去5年における着火物別割合をみると、「布団類」が38.0%（19人）で最も多い（図 1-47、図 1-48、図 1-49）

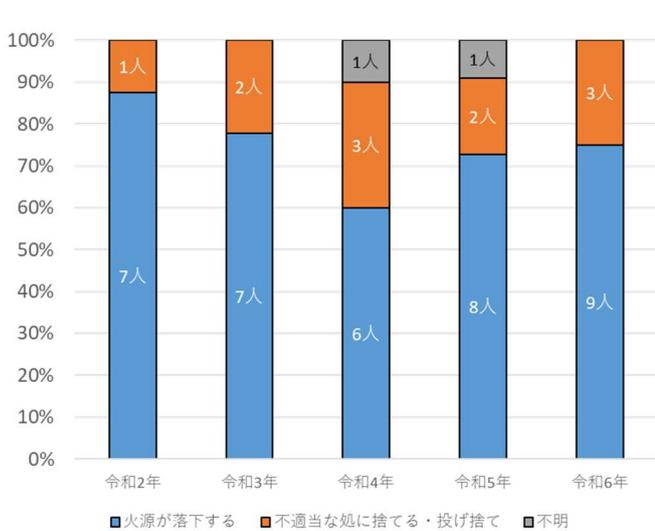


図 1-47 たばこが出火原因の住宅火災で発生した高齢者の死者経過別割合（過去5年）

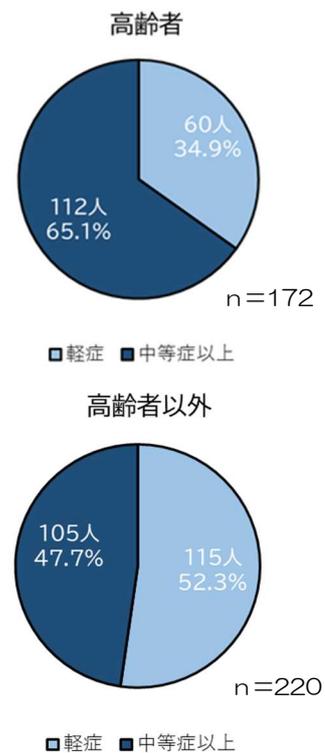


図 1-48 たばこが出火原因の住宅火災における死傷者程度別割合（過去5年）

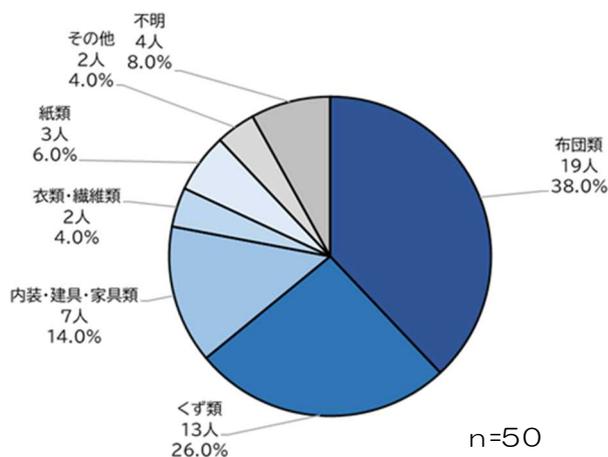


図 1-49 たばこが出火原因の住宅火災で発生した高齢者の着火物別割合（過去5年）

イ ストーブ

- ストーブが出火原因の火災による高齢者の死者は7人中、「可燃物が接触する」4人（57.1%）、「可燃物が落下する」2人（28.6%）の順で多く発生
- 経過別割合の「可燃物が接触する」は5年連続で最上位となり、直近5年間の平均では64.0%程度の割合を占める
- 過去5年における死傷程度別割合を比較すると、死傷程度が「中等症以上」の割合が、高齢者以外は35.5%（39人）であるのに対し、高齢者は72.6%（106人）と高い割合を占める
- 過去5年における着火物別割合をみると、「布団類」37.1%（13人）、「衣類・繊維類」28.6%（10人）の順で多く発生

（図 1-50、図 1-51、図 1-52）

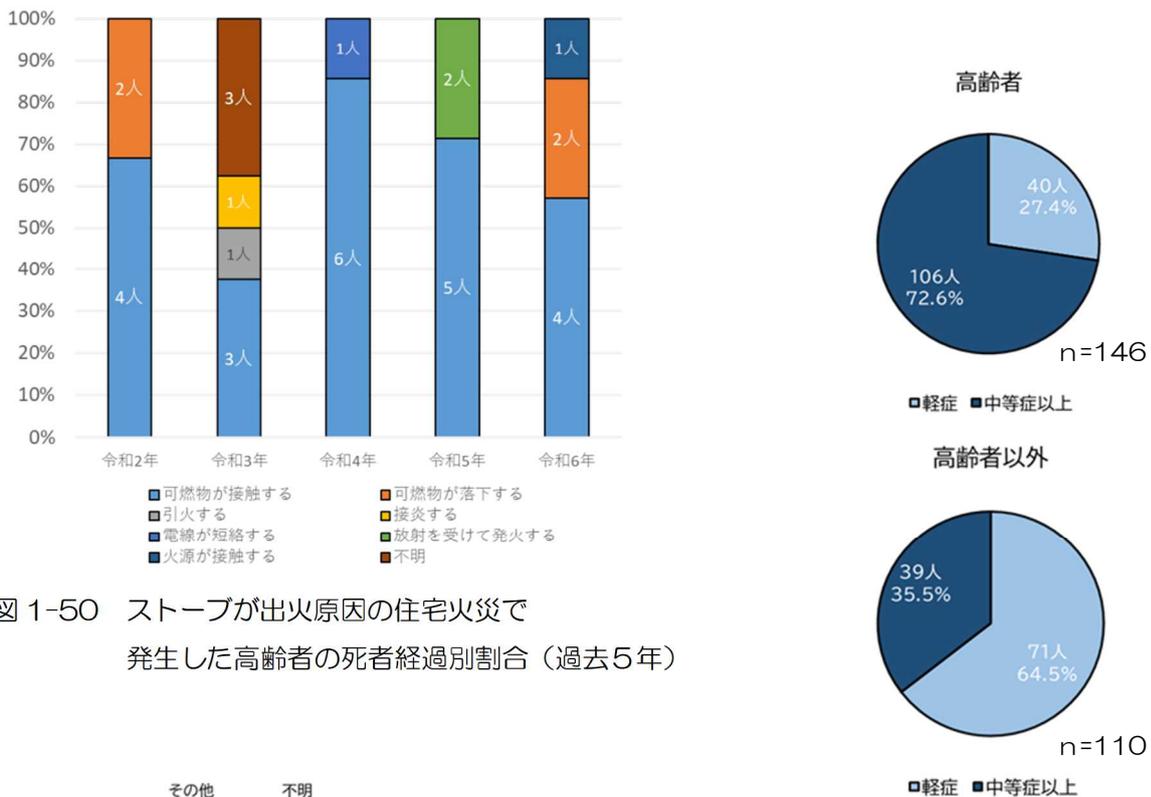


図 1-50 ストーブが出火原因の住宅火災で発生した高齢者の死者経過別割合（過去5年）

図 1-51 ストーブが出火原因の住宅火災の死傷者程度別割合（過去5年）

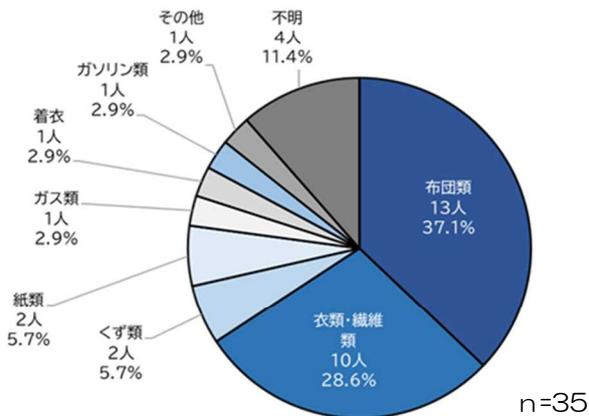


図 1-52 ストーブが出火原因の住宅火災で発生した高齢者の着火物別割合（過去5年）

ウ こんろ

- こんろが出火原因の火災による高齢者の死者は4人中、「可燃物が接触する」3人（75.0%）、「接炎する」1人（25.0%）の順で多く発生
- 経過別割合の「可燃物が接触する」は5年連続で最上位となり、直近5年間の平均では74.0%程度の割合を占める
- 過去5年における死傷程度別割合を比較すると、死傷程度が「中等症以上」の割合が、高齢者以外は30.2%（124人）であるのに対し、高齢者は**49.5%**（135人）と高い割合を占める
- 過去5年における着火物別割合をみると、「着衣類」が**28.6%**（6人）で最も多い
（図 1-53、図 1-54、図 1-55）

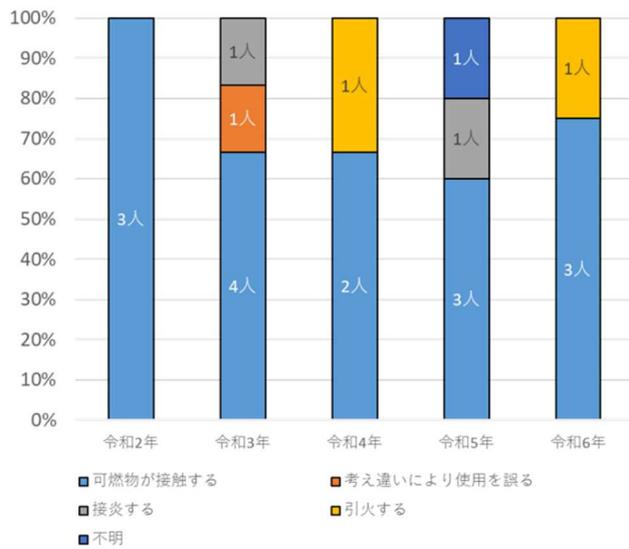


図 1-53 こんろが出火原因の住宅火災で発生した高齢者の死者経過別割合（過去5年）

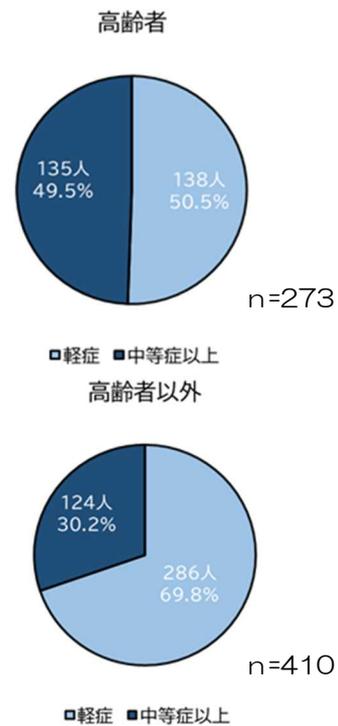


図 1-54 こんろが出火原因の住宅火災の死傷者程度別割合（過去5年）

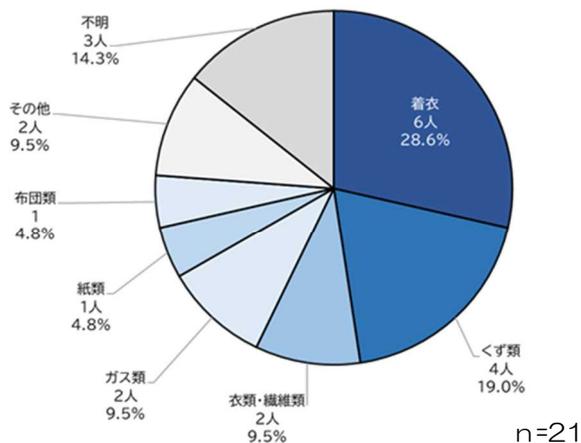


図 1-55 こんろが出火原因の住宅火災で発生した高齢者の着火物別割合（過去5年）

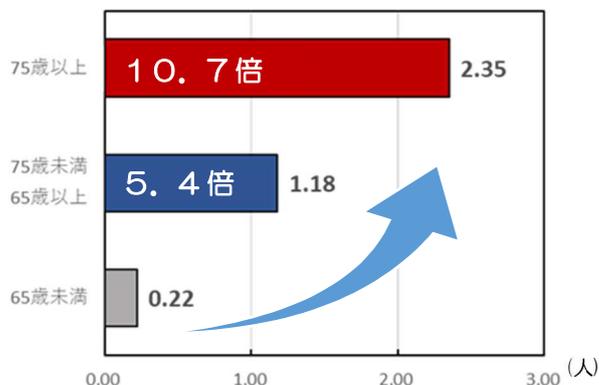
(4) 高齢者と高齢者以外の人口 10 万人あたりの住宅火災の死者数とその推移

- 65 歳未満の死者は **0.22 人** 発生
- 65 歳以上 75 歳未満の死者は **1.18 人** 発生し、65 歳未満の死者数の **5.4 倍**
- 75 歳以上の死者は **2.35 人** 発生し、65 歳未満の死者数の **10.7 倍**

(表 1-40 図 1-56)

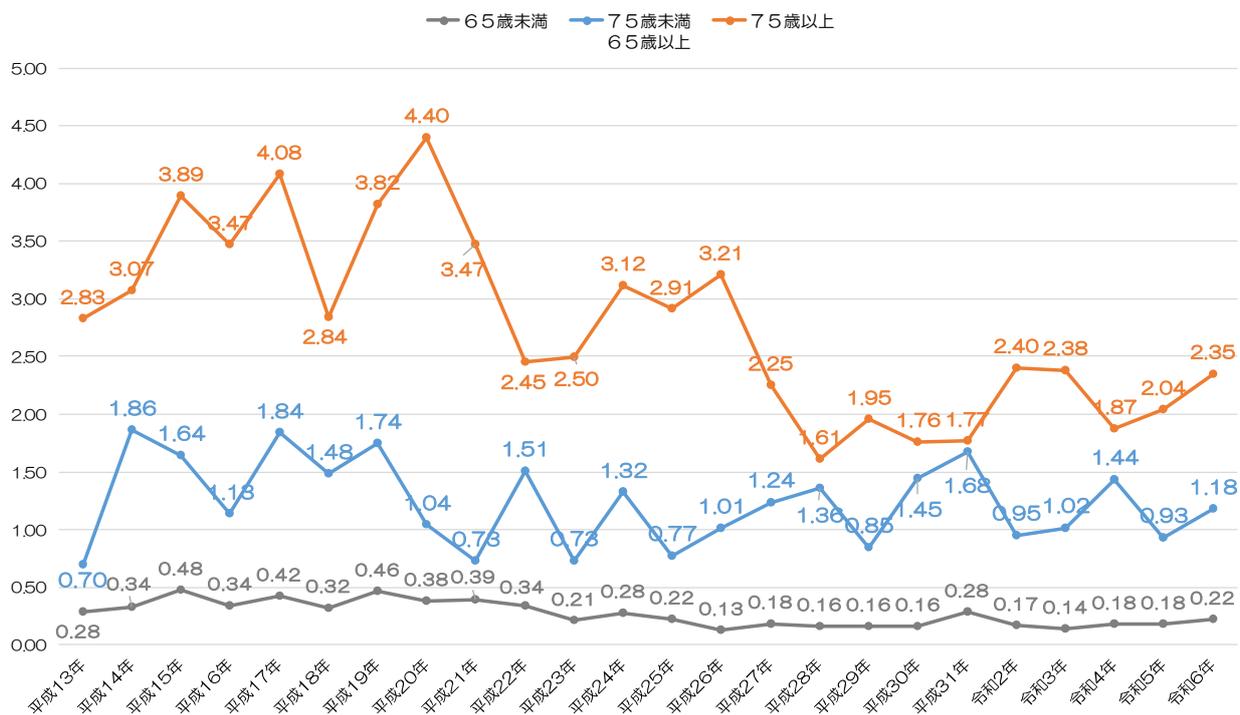
表 1-40 高齢者死者数と人口

年齢別	死者	管内人口	人口 10 万人あたりの死者発生数
75 歳以上	42	1,786,591	2.35
75 歳未満 65 歳以上	16	1,356,665	1.18
65 歳未満	24	10,768,646	0.22



※管内人口：令和 6 年 1 月 1 日現在
 (「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」東京都より)

図 1-56 年齢別人口 10 万人あたりの住宅火災による死者数



【参考資料】 人口 10 万人あたりの死者数の推移 (平成 13 年～令和 6 年)

第 2 章 放火火災の実態

1 放火火災の概要

令和 6 年中の総火災件数 4,518 件のうち放火（放火の疑いを含む）火災は **665 件**でした。

- 放火火災件数は減少傾向にあるが、令和 6 年中の総火災件数に占める放火の件数は令和 5 年に比べて **26 件増加**
- 放火火災 665 件の内訳は、その他火災 436 件(65.6%)、建物火災 218 件(32.8%)、車両火災 10 件(1.5%)、林野火災 1 件(0.1%)

(図 2-1)

※ 治外法権及び管外からの延焼火災は、総火災件数のみ計上しています。



図 2-1 過去 10 年の放火火災件数の推移

2 放火火災の発生状況

(1) 月別発生状況(5年累計)

- 放火火災は 11 月から増え始め、12 月から3月までの火災多発期に多く発生
- 建物外からの出火の割合が多く、特に12月が最も多い (図 2-2、表 2-1)

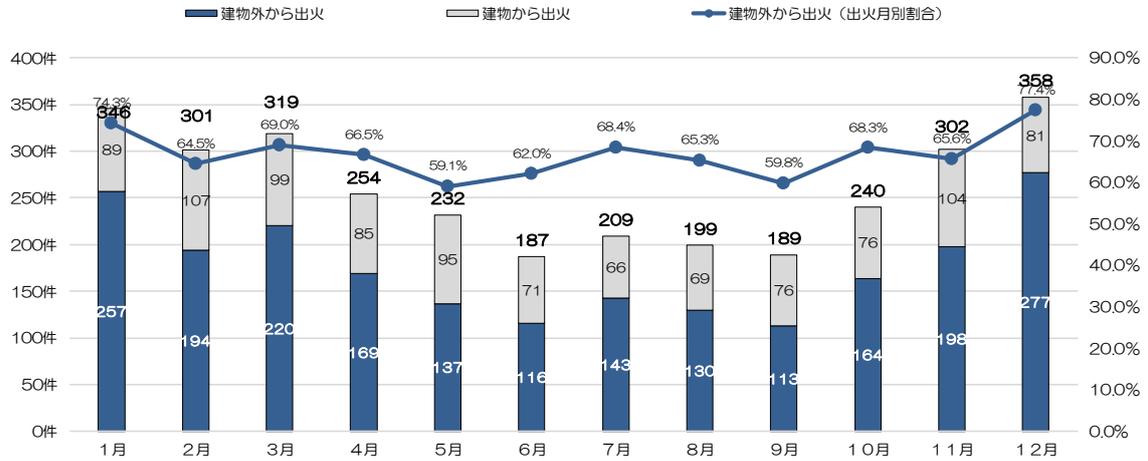


図 2-2 月別の放火火災発生状況 (令和 2 年から令和 6 年まで)

【参考資料】表 2-1 出火月別 放火火災状況 (令和 2 年から令和 6 年まで)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計	放火件数
令和 6年	建物外	44	35	42	40	31	29	25	12	29	58	52	70	467	665
	建物内	17	13	13	16	17	23	13	18	18	18	20	12	198	
令和 5年	建物外	54	30	47	36	30	19	51	28	18	32	42	65	452	639
	建物内	11	14	22	13	22	17	14	14	15	12	23	10	187	
令和 4年	建物外	61	34	36	17	30	27	22	27	24	34	48	48	408	601
	建物内	13	20	13	11	25	13	14	13	14	16	19	22	193	
令和 3年	建物外	46	55	52	51	24	23	26	20	21	19	27	43	407	590
	建物内	20	19	24	20	15	8	9	8	11	14	20	15	183	
令和 2年	建物外	52	40	43	25	22	18	19	43	21	21	29	51	384	641
	建物内	28	41	27	25	16	10	16	16	18	16	22	22	257	

(2) 曜日別発生状況(5年累計)

- 若干の上下はあるものの、平日休日関わらず様に発生
- 曜日による出火場所の明らかな変動は見られない

(図 2-3、表 2-2)

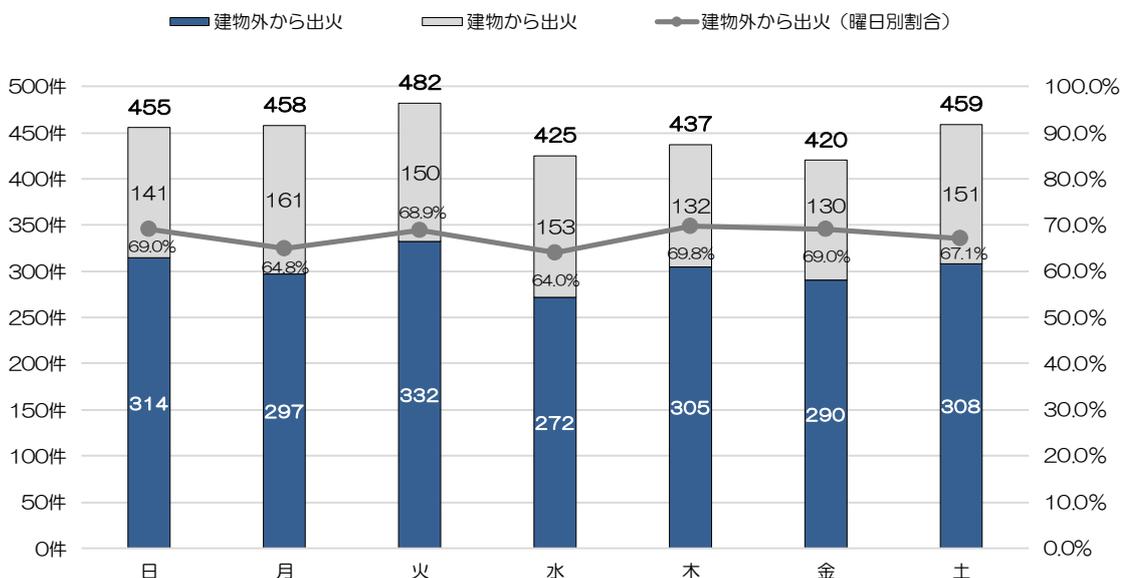


図 2-3 曜日別の放火火災発生状況 (令和2年から令和6年まで)

【参考資料】表 2-2 出火曜日別 放火火災発生状況 (令和元年から令和5年まで)

		日	月	火	水	木	金	土	合計	放火件数
令和6年	建物外	75	67	67	53	64	60	81	467	665
	建物内	29	30	27	32	26	25	29	198	
令和5年	建物外	70	51	79	65	65	70	52	452	639
	建物内	27	22	25	32	19	33	29	187	
令和4年	建物外	60	61	61	49	67	51	59	408	601
	建物内	35	28	26	25	28	17	34	193	
令和3年	建物外	46	62	57	57	66	61	58	407	590
	建物内	16	36	26	26	30	21	28	183	
令和2年	建物外	63	56	68	48	43	48	58	384	641
	建物内	34	45	46	38	29	34	31	257	

(3) 時間帯別発生状況

過去5年累計 3,136 件中、出火時間が不明であった 940 件を除いた 2,196 件の放火火災を時間帯別にみる。

➤ 14時台から3時台までの午後から早朝にかけての時間帯に放火火災が多く発生し、建物外からの出火が約7割を占める (図2-4、表2-3)

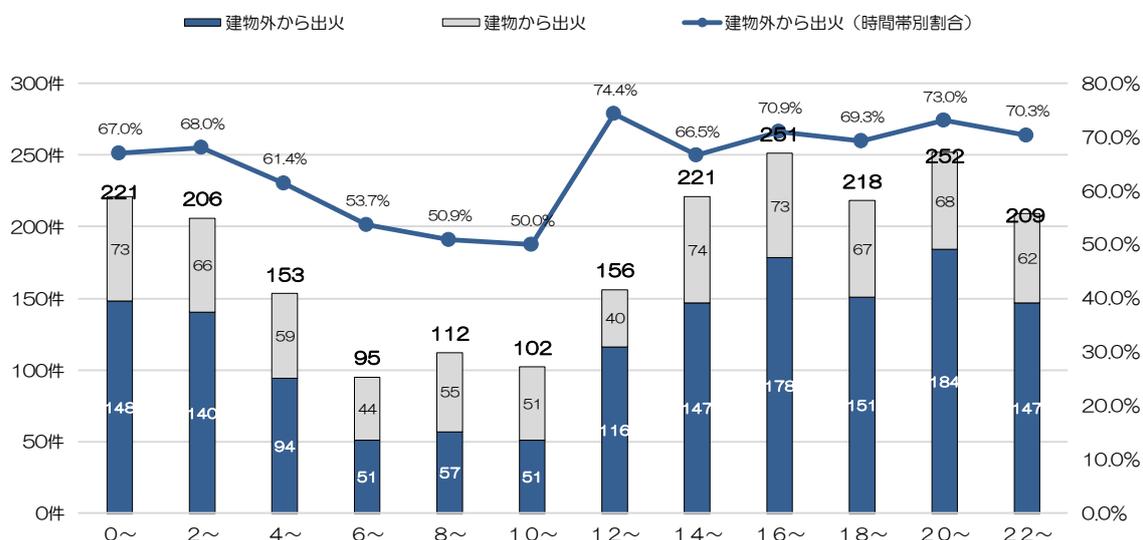


図2-4 時間帯別の放火火災発生状況 (令和2年から令和6年まで)

【参考資料】表2-3 出火時間帯別 放火火災件数 (令和2年から令和6年まで)

		0~	2~	4~	6~	8~	10~	12~	14~	16~	18~	20~	22~	不明	総計	放火件数
		令和6年	建物外	29	33	22	13	9	15	21	29	57	33	37	24	
建物内	15	9	8	8	6	8	8	8	19	16	16	15	11	59	198	
令和5年	建物外	28	34	20	10	17	7	26	32	29	20	42	33	154	452	639
建物内	13	12	11	6	10	9	5	10	20	9	12	15	55	187		
令和4年	建物外	33	23	12	10	16	8	27	28	32	31	40	26	122	408	601
建物内	11	15	13	13	16	11	11	14	8	15	12	7	47	193		
令和3年	建物外	33	29	18	8	4	13	26	26	20	39	42	35	114	407	590
建物内	16	9	10	8	9	10	4	12	16	13	8	13	55	183		
令和2年	建物外	25	21	22	10	11	8	16	32	40	28	23	29	119	384	641
建物内	18	21	17	9	14	13	12	19	13	14	21	16	70	257		

(4) 連続放火火災の発生状況

令和6年中、同一日とその翌日までに、同一地域内で5件以上放火された連続放火火災は**1回発生**

(表 2-4)

表 2-4 主な連続放火火災の発生状況

発生月	区市町村	出火箇所	焼損物件	連続件数
4月	大田区	共同住宅敷地内 事務所敷地内	紙くず、ごみくず等	5

(5) 主な火元建物用途別の発生状況

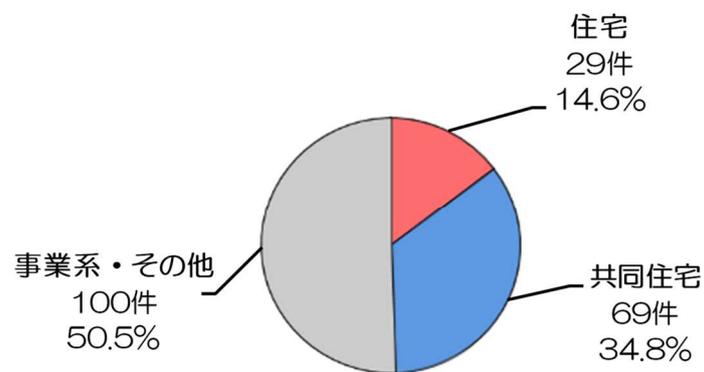
放火火災 665 件のうち、建物から出火した放火火災 **198 件** を主な建物用途別にみる。

- 住宅 **29 件(14.6%)**、共同住宅 **69 件(34.8%)**、事業系・その他 **100 件(50.5%)**
- **約半数**が住宅及び共同住宅から発生

(表 2-5、図 2-5)

表 2-5 火元建物用途別発生状況

火元用途		放 火	建物から 出火した火災	放 火 件 数 / 火 災 件 数
居 住 系	住 宅	29	581	5.0%
	共 同 住 宅	69	1,143	6.0%
事 業 系	事 務 所	31	318	9.7%
	百 貨 店 ・ 物 販 等	5	174	2.9%
	停 車 場	8	48	16.7%
	病 院 等	1	24	4.2%
	飲 食 店	2	393	0.5%
	学 校	0	31	0%
	倉 庫	6	20	30.0%
	ホ テ ル ・ 簡 易 宿 泊 所	2	102	2.0%
	作 業 所	2	85	2.4%
	そ の 他	11	97	11.3%
そ の 他	共 用 部 分	22	150	14.7%
	付 属 建 物 等	7	24	29.2%
	空 家	1	2	50.0%
	そ の 他	2	24	8.3%
合 計		198	3,216	6.2%



n=198

図 2-5 建物から出火した放火火災内訳

(6) 主な放火場所と着火物

放火火災 665 件中の主な出火場所と着火物をみる。

- 放火場所が建物関係（主として建物の箇所）の放火火災は **198 件(29.8%)**で全体の約 **3 割**を占める
 - 建物関係 198 件のうち、最も多い放火場所は共用部分 **84 件 (42.4%)**、次いで住宅部分 **56 件(28.3%)**で、これら 2 つを合わせると全体の **7 割**を占める
 - 放火場所が建物関係以外（主として建物以外の箇所）の放火火災は **467 件(70.2%)**と全体の **7 割**を占める
 - 建物関係以外 467 件のうち、最も多い放火箇所は敷地内 **157 件(33.6%)**、次いで公園・墓地 **73 件(15.6%)**
 - 着火物別にみると（その他・不明を除く）、「ごみくず」、「枯草等」、「紙・紙製品類」「合成樹脂製品等」の順で多く発生
- (表 2-6)

表 2-6 主な放火場所と着火物

放火場所		着火物	ごみくず	紙・紙製品類	合成樹脂製品等	枯草等	繊維類	くず類	車両関係	その他	不明	合計
建物関係	共用部分		14	40	16	0	7	4	0	2	1	84
	住宅部分		3	13	4	0	24	2	0	4	6	56
	建物の外周部		0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	物置・倉庫		3	2	2	0	2	2	0	0	2	13
	バルコニー・屋上		1	1	2	0	4	0	0	0	0	8
	車庫・駐車場		2	2	2	0	3	1	0	1	0	11
	その他		4	4	6	0	2	1	0	4	3	24
	小計		27	62	32	0	42	10	0	13	12	198
建物関係以外	敷地内		54	13	26	26	7	25	0	6	0	157
	公園・墓地		37	8	5	10	4	3	0	6	0	73
	河川敷		9	0	0	13	1	4	0	3	1	31
	車両		0	0	1	0	2	0	4	0	0	7
	屋外ごみ捨場		9	2	3	0	0	0	0	0	0	14
	バルコニー・屋上		0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	建物の外周部		0	2	2	0	1	0	0	1	1	7
	その他		49	17	8	67	4	16	0	14	1	176
	小計		158	43	46	116	19	48	4	30	3	467
合計		185	105	78	116	61	58	4	43	15	665	

事例・対策編

1 住宅火災の主な事例

(1) たばこ

【事例1】たばこの不始末により発生した住宅火災の事例

火災の程度	ほや	死傷者の発生状況	なし
共同住宅居住者が、紙ごみの入るゴミ袋にたばこの吸い殻を入れ、シンク内に放置したまま外出したところ、火種が消えておらず紙ごみに着火し火災となりました。			

【事例2】寝たばこにより死者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	部分焼	死傷者の発生状況	死者1名
たばこを吸っていたところ、火種が寝具に着火し火災となりました。この火災で死者が1名発生しています。			

(2) こんろ

【事例1】子どもが誤って点火スイッチを押したことで発生した住宅火災の事例

火災の程度	ほや	死傷者の発生状況	なし
居住者である未就学の子どもが誤ってこんろの点火スイッチを押したため、こんろ上に置かれていた水切りかご及びトレイに着火し火災となりました。			

【事例2】天ぷら油を過熱したまま放置したことで発生した住宅火災の事例

火災の程度	ほや	死傷者の発生状況	なし
居住者は調理後の天ぷら油を処理する凝固剤を投入するために火にかけたままこんろを離れ、放置したことで天ぷら油が過熱され出火し、火災となりました。			

(3) ストーブ

【事例1】石油ストーブでカーテンが熱せられたことにより発生した住宅火災の事例

火災の程度	全焼	死傷者の発生状況	負傷者あり
住宅の居住者が石油ストーブをつけたまま寝入ってしまったところ、石油ストーブの背面にあったカーテンに燃え移り火災となりました。			

【事例2】電気ストーブと布団が接触したことにより火災が発生した住宅火災の事例

火災の程度	ほや	死傷者の発生状況	なし
共同住宅の居住者が電気ストーブをつけたまま寝入ってしまったところ、布団にヒーター部が接触し火災となりました。			

(4) コード

【事例1】電気コードの短絡により出火した住宅火災の事例

火災の程度	部分焼	死傷者の発生状況	死者1名
居室内で使用していた、電気式蚊取り器のコードが短絡し周囲にある紙くずに着火したことで火災となりました。この火災で死者が1名発生しています。調査の結果、電気コードが短絡し火災が発生したものと分かりました。			

(5) その他

【事例1】トラッキング現象により発生した住宅火災の事例

火災の程度	全焼	死傷者の発生状況	死者1名
住宅1階の居室内で壁付コンセントに接続されていたマルチタップで発生したトラッキング現象により出火し火災となりました。この火災で死者1名が発生しています。			

【事例2】着衣着火で負傷者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	負傷者あり
お茶を沸かすためにやかんを火にかけ、沸騰するまで待つ間、こんろに背を向け会話をしていたところ、着衣の背中側にこんろの火が接触し火災となりました			

2 住宅用防災機器等の主な奏功事例

(1) 住宅用火災警報器

【事例 1】住宅用火災警報器の鳴動により火災の早期発見に至った事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	傷者 4 名		
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	あり
この火災は、就寝中に接続されたままの状態であったテーブルタップから発火し火災となりました。行為者を含む居住者 4 名は住宅用火災警報器の鳴動音で火災の発生に気づき、通報および初期消火を実施し火災の延焼を防ぎました。					

【事例 2】住宅用火災警報器の鳴動により火災の早期発見に至った事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	なし		
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	なし
この火災は、電気ストーブと布団が接触し過熱され火災となりました。隣室でテレビを見ていた居住者が、住宅用火災警報器の鳴動音で火災の発生に気づき、119番通報に至りました。					

(2) 消火器具

【事例 1】消火器による初期消火により火災の延焼を防いだ事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	負傷者なし		
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	あり
この火災は子どもが、こんろで調理しようとしてスイッチを付けた際、上に置かれていたまな板に着火し火災となりました。こんろの下に置いていた自宅の消火器を用いて初期消火を実施し火災の延焼を防ぎました。					

【事例 2】住宅用消火器による初期消火により火災の延焼を防いだ事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	傷者 1 名		
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	あり
この火災は、ダイニングキッチンのテレビ台裏の電気配線が何らかの原因で短絡し出火したため火災となりました。居住者はキッチン近くに置いていた住宅用消火器を用いて初期消火を実施し火災の延焼を防ぎました。					

資料編

1 区市町村別住宅火災状況

区名	世帯数	建物から出火した火災件数	住宅火災件数	住宅火災の割合
千代田区	39,207	127	9	7.1%
中央区	100,917	134	30	22.4%
港区	152,545	175	63	36.0%
新宿区	227,339	199	45	22.6%
文京区	128,475	78	31	39.7%
台東区	133,471	72	31	43.1%
墨田区	167,020	64	40	62.5%
江東区	289,908	122	58	47.5%
品川区	233,659	85	43	50.6%
目黒区	159,667	51	34	66.7%
大田区	410,030	191	104	54.5%
世田谷区	496,436	163	116	71.2%
渋谷区	142,443	154	51	33.1%
中野区	213,350	85	57	67.1%
杉並区	329,488	89	55	61.8%
豊島区	184,969	72	38	52.8%
北区	207,041	70	56	80.0%
荒川区	122,010	52	35	67.3%
板橋区	327,308	88	63	71.6%
練馬区	389,715	112	90	80.4%
足立区	371,942	125	81	64.8%
葛飾区	248,433	79	58	73.4%
江戸川区	353,487	116	85	73.3%
特別区合計	5,428,860	2,503	1,273	50.9%

市町村名	世帯数	建物から出火した火災件数	住宅火災件数	住宅火災の割合
八王子市	282,252	105	67	63.8%
立川市	96,728	54	28	59.1%
武蔵野市	78,667	36	17	47.2%
三鷹市	96,752	20	17	85.0%
青梅市	65,181	24	13	54.2%
府中市	129,835	36	28	77.8%
昭島市	56,875	34	17	50.1%
調布市	123,497	41	26	63.4%
町田市	206,953	77	43	55.8%
小金井市	62,848	16	14	87.5%
小平市	96,344	26	19	73.1%
日野市	93,257	36	23	63.9%
東村山市	76,295	17	10	58.8%
国分寺市	63,950	23	13	56.5%
国立市	39,293	10	6	60.0%
福生市	31,022	12	4	33.3%
狛江市	43,062	10	10	100%
東大和市	40,783	9	9	100%
清瀬市	36,899	16	12	75.0%
東久留米市	56,510	16	12	75.0%
武蔵村山市	32,890	9	6	66.7%
多摩市	75,076	25	19	76.0%
羽村市	26,643	14	9	64.3%
あきる野市	37,210	11	10	90.9%
西東京市	36,790	24	17	70.8%
瑞穂町	15,199	9	0	0.0%
日の出町	15,371	2	1	50.0%
檜原村	7,579	0	0	0.0%
奥多摩町	1,118	1	1	100.0%
多摩地区合計	2,050,889	713	451	63.3%
合計	7,506,317	3,216	1,724	53.6%

※ 世帯数は令和6年1月1日現在のもの
「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」
(東京都の統計ホームページ)による

2 区市町村別住宅火災による死者発生火災件数状況

区名	死者発生件数	住宅火災件数	死者発生率※ (令和6年)	死者発生率※ (過去5年)
千代田区	0	9	0.0%	2.2%
中央区	0	30	0.0%	1.6%
港区	2	63	3.1%	2.0%
新宿区	6	45	13.3%	4.4%
文京区	2	31	6.5%	2.7%
台東区	0	31	0.0%	2.9%
墨田区	4	40	10.0%	5.8%
江東区	5	58	8.6%	5.1%
品川区	3	43	7.0%	6.1%
目黒区	1	34	2.9%	3.4%
大田区	7	104	6.7%	4.9%
世田谷区	1	116	0.9%	2.3%
渋谷区	1	51	2.0%	2.1%
中野区	0	57	0.0%	2.9%
杉並区	3	55	5.5%	2.8%
豊島区	2	38	5.3%	3.5%
北区	3	56	5.4%	4.8%
荒川区	3	35	8.6%	6.8%
板橋区	2	63	3.2%	3.6%
練馬区	2	90	2.2%	4.5%
足立区	5	81	6.2%	4.8%
葛飾区	3	58	5.2%	5.3%
江戸川区	6	85	7.1%	3.7%
特別区合計	61	1,273	4.8%	3.9%

※ 死者発生率 = $\frac{\text{死者が発生した住宅火災件数}}{\text{住宅火災件数}}$

市町村名	死者発生件数	住宅火災件数	死者発生率※ (令和6年)	死者発生率※ (過去5年)
八王子市	3	105	2.9%	5.5%
立川市	1	54	1.9%	6.2%
武蔵野市	0	36	0.0%	6.0%
三鷹市	0	20	0.0%	5.7%
青梅市	1	24	4.2%	6.4%
府中市	2	36	5.6%	8.2%
昭島市	0	34	0.0%	4.0%
調布市	1	41	2.4%	4.0%
町田市	3	77	3.9%	11.1%
小金井市	0	16	0.0%	3.9%
小平市	0	26	0.0%	4.9%
日野市	3	36	8.3%	4.5%
東村山市	1	17	5.9%	9.8%
国分寺市	0	23	0.0%	6.0%
国立市	0	10	0.0%	0.0%
西東京市	2	12	16.7%	4.3%
福生市	1	10	10.0%	3.3%
狛江市	1	9	11.1%	5.1%
東大和市	0	16	0.0%	4.7%
清瀬市	0	16	0.0%	5.6%
東久留米市	0	9	0.0%	5.7%
武蔵村山市	0	25	0.0%	5.7%
多摩市	1	14	7.1%	6.9%
羽村市	1	11	9.1%	1.1%
あきる野市	0	24	0.0%	2.9%
瑞穂町	0	9	0.0%	0.0%
日の出町	0	2	0.0%	10.0%
檜原村	0	0	0.0%	0.0%
奥多摩町	0	1	0.0%	33.3%
多摩地区合計	21	451	4.7%	5.7%
合計	82	1,724	4.8%	4.4%

3 区市町村別放火火災状況

区名	放火火災数 件	総火災数 件	放火火災の割合
千代田区	16	152	10.5%
中央区	17	164	10.4%
港区	17	240	7.1%
新宿区	19	220	8.6%
文京区	5	93	5.4%
台東区	5	102	4.9%
墨田区	12	90	13.3%
江東区	22	177	12.4%
品川区	8	110	7.3%
目黒区	4	69	5.8%
大田区	30	258	11.6%
世田谷区	10	212	4.7%
渋谷区	9	196	4.6%
中野区	11	115	9.6%
杉並区	10	117	8.5%
豊島区	14	111	12.6%
北区	8	110	7.3%
荒川区	15	68	22.1%
板橋区	28	133	21.1%
練馬区	23	161	14.3%
足立区	35	189	18.5%
葛飾区	23	110	20.9%
江戸川区	33	161	20.5%
特別区合計	374	3,338	11.2%

市町村名	放火火災数 件	総火災数 件	放火火災の割合
八王子市	50	201	24.9%
立川市	6	68	8.8%
武蔵野市	6	45	13.3%
三鷹市	6	33	18.1%
青梅市	24	64	37.5%
府中市	13	57	22.8%
昭島市	28	54	51.9%
調布市	9	59	15.3%
町田市	41	126	32.5%
小金井市	4	23	17.4%
小平市	7	43	16.3%
日野市	3	46	6.5%
東村山市	6	29	20.7%
国分寺市	3	30	10.0%
国立市	3	17	17.6%
西東京市	12	38	31.6%
福生市	17	28	60.7%
狛江市	1	14	7.1%
東大和市	5	20	25.0%
清瀬市	7	28	25.0%
東久留米市	11	33	33.3%
武蔵村山市	9	22	40.9%
多摩市	2	34	5.9%
羽村市	2	17	11.8%
あきる野市	7	22	31.8%
瑞穂町	8	15	53.3%
日の出町	0	4	0.0%
檜原村	0	4	0.0%
奥多摩町	1	5	20.0%
多摩地区合計	291	1,179	24.7%
合計	665	4,518	14.7%

※ 治外法権及び管外からの延焼火災は、総火災件数のみ計上します。